

平成28年6月15日発行 ライセンスメイト 第1巻243号通巻569号(年4回 3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行) 昭和36年11月6日第三種郵便物認可

LICENSE MATE

ライセンスメイト

日清講和条約締結120年 日台の生命の絆
終戦70年 福岡宣言



領台時代50年のシンボル 中華民国(台湾)総統府
日本時代は総督府と呼ばれ、明治45年(1912)着工で、大正8年3月に完成。地上5階、地下1階、中央塔の高さ60メートル。ルネッサンス風の赤煉瓦造りで、現在も中華民国の政治の中枢「総統府」として使用される。

発行所 株式会社 日本教育開発

LICENSE MATE

特集 台湾慰霊訪問団

- 1 台南市地震被害復興支援義捐金と芳名簿を手渡し
- 2 「台湾慰霊訪問団特集」に寄せて
- 3 団長あいさつ
- 5 台湾訪問の目的
- 9 報告集(ライセンスメイト)について
- 10 日台の家族(兄弟)交流のあゆみ
- 13 祭文/台湾訪問の旅 訪台者一覧
- 15 一目でわかる訪問先・交歓先
- 16 訪問先・交歓先一覧(第1次～第17次)
- 21 台湾訪問の旅 帰朝報告
- 24 台湾訪問の旅 紀行文集(抄)
- 32 地震被害復興支援義捐金
- 33 福岡宣言
- 35 ご支援をいただいた皆様
- 36 臺灣の聲
- 37 第18次台湾慰霊訪問の旅・参加者募集のお知らせ
- 38 知られざる「神蹟の遺跡」
- 39 中華民国外交部・台日文化經濟協會・高雄市政府(市役所)表敬訪問
- 41 結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会
- 43 台湾特別講演会



皆様からの義捐金と芳名簿を黄支部長へ



黄明山台湾支部長より鄭俊傑社會局秘書室主任へ

台南市地震被害復興支援義捐金と芳名簿を手渡し

平成28年2月6日未明、台湾で南部最大の都市・高雄市を震源とするマグニチュード6強の地震が発生しました。震源に近い台南市では複数のビルが倒壊し、多数の死者や行方不明者が出るなど甚大な被害が発生しました。

台南市は慰霊訪問団にとって大変重要な地です。①大日本帝國海軍飛行兵の杉浦茂峰兵曹長を祀る飛虎將軍廟の地であり、②「嘉南大圳の父」と慕われる八田與一の烏山頭ダムや墓所が大切にされ、今に至るも日台両国の人々が心を潤わせる地であり、③台湾に遺る日本精神を大事にされる許文龍先生との出会いの地でもあります。いわば私たちにとって台南市は領台時代の面影を最も遺して下さっている大切な故郷です。その郷里ともいえる被災地の惨状に胸を痛み、復興・再建を切に願い、広く義捐金の募集を呼びかけました。

4月10日に来福中であつた黄明山台湾支部長へ台南市政府の頼清徳市長への義捐金と芳名簿を託し、4月26日に台南市政府(鄭俊傑社會局秘書室主任)を表敬訪問して戴き、皆様方よりお預かりいたしました義捐金(363,000円)ならびにご協力戴きました皆様方の芳名簿を直接お渡しすることが出来ました。



「台湾慰霊訪問団特集」に寄せて

台北駐福岡經濟文化辦事處

えびす よし とし
處長 戎 義 俊

この度の熊本・大分両県における「熊本地震」による災害に、衷心よりお見舞い申し上げます。犠牲になられた方のご冥福をお祈りしますとともに、被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

4月14日、16日の地震発生後、中華民国政府は少しでも熊本のお役に立てるようにと6,500万円の義援金を熊本県庁に振込みました。建物や交通機関などへの甚大な被害、そして相次ぐ余震に台湾国民は皆心配し、台湾全国の各地方自治体や民間グループ、日本の華僑界からもたくさんの支援金や支援物資が被災地に届けられました。今年の2月6日にも台湾台南で地震が発生するなど、ここ数年、台湾と日本では、自然災害が頻発しています。大きな被害が出るたびに、両国は助け合っ

てまいりました。熊本・大分両県の日も早い復旧と復興を衷心より祈念申し上げます。

さて、去る5月20日、台湾におきまして第14代の中華民国総統に蔡英文氏が、副総統に陳建仁氏が就任いたしました。1月の総統選直後に日本の安倍首相は、「台湾は日本の古くからの友人だ。自由な言論のうえに、選挙でリーダーを決める総統選挙は、台湾の自由と民主主義の証しだと考える。蔡英文氏の当選に

対し、心から祝意を表したい。」と述べ、蔡氏の当選を歓迎しました。

日頃からの皆様の御支援のおかげで両国の交流は非常に活発で、相互往来数は年々増加の一途をたどってきております。昨年、訪日した台湾人は367万人、訪台した日本人は175万人、合計で542万人もの人的交流がありました。台湾人の日本旅行の人気はもとより、日本の皆様による台湾旅行も大変な人気で、昨年から今年にかけての年末年始の海外旅行先では台湾が1位、そして今年のゴールデンウィークでも1位が台湾でした。このような観光交流が出来ておりますのも、お互いへの信頼、そしてお互いに好感を持っていることの証であると心から嬉しく思っております。

いうまでもなく、九州山口と台湾との往来も年々増加しております。九州内には台湾の格安航空会社(LCC)2社を含む定期航空便が続々と就航、高雄～熊本、高雄～福岡、桃園(台北)～福岡の3路線が新たに増え、若者による九州方面への旅行が大幅に増加しております。もちろん、このような良好な関係は観光のみではございません。経済、文化、学術、スポーツ、青少年、修学旅行など、どの分野におきましても大変重要なパートナーとして友好・協力関係

を深めており、スムーズな交流が一年中、頻繁に行われております。これも偏に皆様の御支援の賜物と誌面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

民進党の蔡英文政権は、日台関係を非常に重視しております。台湾と日本とはこれまでの良好な関係の基礎の上に立ち、いつその前進と発展をすることができます。そしてもちろん、九州山口と台湾との関係もより一層の発展が期待できると私は確信しております。皆様におかれましては、今後とも引き続きまして、台湾へのご支持とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

我が国と日本とは「自由」「民主」「法的支配」という同じ価値観を持つ間柄です。そして何より両国には「日本精神」という目に見えない強い絆があります。台湾と日本、そして台湾と九州山口の交流がさらに深まり、これからも切磋琢磨を続け、一層緊密な友好関係を築いていけるよう祈念いたします。

結びに、日華(台)親善友好慰霊訪問団のますますのご発展と、小菅団長はじめ団員の皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。



認識日本

日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅 亥三郎

認識台湾は認識日本への道

公教育において台湾人(国民)が台湾(国家)のことを当たり前きちんと教えられることをこんなに羨ましく思うのは私ひとりだけではないと思います。

千葉県佐原市(現「香取市」)の香取神宮の境内で生まれ育った私が思い起こすに、小学校時代にそのお宮のことを正規の教科で教えられた記憶はありません。中学、高校でソ連(現「ロシア」)のソホーズやソホーズ、中共の人民公社は叩き込まれても、大化改新以降のわが国の君民一体の歴史については、たったの1分間でさえ教えられなかったと記憶しています。

認識台湾から学ぶこと、それは認識日本の絶対的必要不可欠性ではないでしょうか。

認識台湾と蔡英文

今年1月16日に台湾総統選(直接選挙)で選ばれた蔡英文女史は先月、5月20日の就任式を経て、多数派与党を率い、いよいよ国政の舵

取りに船出します。中華民國第14代総統として台湾のトップに躍り出た瞬間です。

大東亜戦争終戦に伴い、わが国が施政権、行政権を[台湾人に]返還した台湾、1947年に2.28事件を経験し、それに続く41年間の戒厳令に耐え抜いた台湾、1988年1月13日、蔣経國総統の死去に伴い、第7代総統を引き継いだ李登輝氏の治政下で復権された領台時代を「認識台湾」という形で公教育に導入した台湾、同じ戦後を経験しながらも「反抗期」なる禁じ手だけは使わなかったが故に家庭教育と家族の絆が維持され今日に至るも守られている台湾、太陽花学生運動を国民的規模で応援し、兩岸サービス貿易協定を葬り去った台湾。

そのような経緯を主体的に担い、地道に勝利体験を積み上げてきた、したたかで誇り高い国民であるからこそ天は最も相応しい人をリーダーとして遣わされました。

民主主義の経験もなく、そのための教育を受けることもなかった戦後台湾が、台湾人の台湾人による台湾人のための統治を手中にしたので

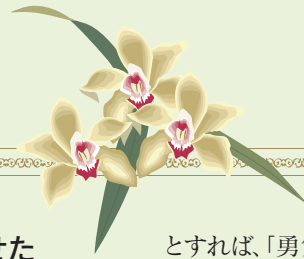
す。

日本統治とは

李登輝治政の最大の功績は何と云っても領台時代の見直し(再評価)と大陸支那との間合いの取り方で仕切り直しをしたことです。彼はそれまでの台湾で行われていた大陸至上主義を改め、台湾再発見の旅を推進させました。その結果1997年から公教育(中学校)において使用された「認識台湾」(教科書)で育った世代が、今や台湾の壮年層を形成するまでになりました。

NHKがどんなに悪意を込めた番組(「アジアの一等国」)を放送しようが、親日を捨てなかった台湾人を育てた日本統治とは、一体どういうものだったのでしょうか。それは、公(おおやけ)第一、私(わたくし)第二の国づくりといえます。

そして、その考え方を親和性をもってしっかりと受け入れてくれたところが台湾のすごいところでした。そしてまた「公第一、私第二の国づくりドキュメント」を中学校における公教育で教えたところに台湾人の偉大さ



と先見性、そして勇気があります。

日本の明治・大正・昭和が作った理想郷である台湾50年

日清講和談判後、台湾に渡った明治人が学校令、徴兵令の下における教育と訓練を受けた日本人であったことは意外と見落としがちなところだ。

当時のわが国の教育は素読と暗誦が基本でした。そういう中、国民皆兵制度のもと、陸軍に入隊した男たちは例外なく全員が明治15年1月4日に下賜された「軍人勅諭」を暗誦しました。2686文字もの長文です。初等教育では男女を問わず全ての国民が315文字の「教育勅語」を誦んじました。民族の祭主であり、皇軍の大元帥であられる天皇の諡号は、初代・神武天皇から第121代孝明天皇まで競って覚え込みました。

国生み神話から今上陛下に到るまでの家系を素直に体得することで、天上界に淵源をもつ天皇家にお仕えする臣民になっていったのです。「公(おおやけ)第一。私(わたくし)第二」の権化、化身はこうして作られていきました。

いわば、こういう人たちが主力となって台湾に渡っていったのです。私文化(わたくしぶんか)の極みともいえる支那文化しか知らなかった彼らにとってこれは天地が逆様になるに等しい晴天の霹靂といってもいいものでした。

明治を誕生させた幕末日本の底力

しかし、そのような明治は誰がプロデュースしたのでしょうか。

迫り来る白禍に対して果敢に挑戦し、神武創業の精神を基本に国づくりを奔走したのは、当時の外様大名や脱藩武士でした。徳川幕府も叡智の限りを尽くしましたが、結果外敵に対してはオールニッポンが力を合わせてこそ撃退することができたのです。これは徳川260年の安定と治政がもたらした民度の高さと、武士階級の存在なくては到底考えられなかったことです。

当時の日本人にとっては、明記されてなくても国の護りは当然のことでした。国権があつてこそその人権ということも子供でも理解していました。今日行われている国権を否定する「平和教育」や民心を「私(わたくし)第一」に誘導していく「人権教育」が「教育」の名をかたった「プロパガンダ」(宣伝工作)といわれる所以はここにあります。

認識日本こそが救国の道

現代の台湾人が「認識台湾」(教科書)を媒介にして領台時代と公正に向き合い、日本と日本人を好きになるということは、その時代が彼らにとっても良かったということの何よりの証左です。公心の権化ともいえる当時の日本人を一言で言い表わす

とすれば、「勇気」と「責任感」に凝縮されます。そして、このような日本人の生き方、考え方に最も鋭敏に反応したのが台湾人でした。誠心(まごころ)に感応する共鳴板をもっていたからです。

反対に現代の日本人がいつまでも中韓の顔色ばかり窺がって教科書を編集しているようでは、わが国には永遠に夜明けは訪れないでしょう。いかに困難であろうと自国の歴史と伝統、文化に正しく向き合わせる「認識日本」の作業においてわが国を再生していく道はありません。

慰霊訪問団の今日的課題とは

平成11年に開始されたこのプロジェクトも早いもので18年の歳月を刻むに至りました。

かつて、わが国(天皇陛下)の要請に応え、自存自衛と大東亜解放のために散華された台湾人若者を顕彰することは、両国の民族的、国家的紐帯をその基底部分(最深部)において再構築していく試みそのものと言っていいものです。

政治や経済、文化や趣味、芸能やスポーツ等様々な領域で多彩な交流が展開されていますが、台湾人若者の英霊顕彰を柱とする「魂の交流」の深化拡大を図ることこそが、世界一の親日国・台湾の維新元年を共に担う国民にふさわしい行為であると確信する次第です。



「大東亜戦争で散華された 台湾同胞3万3千余柱の 英霊顕彰と慰霊祭参列」

- 11月22日(日) 新北／明石元二郎台湾総督墓所(写真①②)
- 11月23日(月) 高雄／台湾無名戦士記念碑(写真③④⑤)
屏東／東龍宮(写真⑥⑦)
- 11月24日(火) 高雄／保安堂(写真⑧⑨)
台南／飛虎將軍廟(写真⑩⑪⑫)
- 11月25日(水) 台中／宝覚寺(写真⑬⑭)
イ.日本人墓地(日本人遺骨安置所)
ロ.英魂観音亭と「霊安故郷」の慰霊碑
新竹／濟化宮(写真⑮⑯)



①



②



③



④

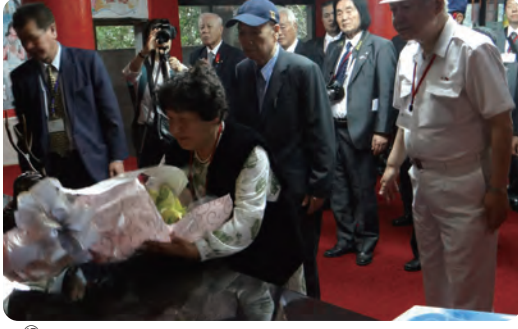


⑤



⑥

台湾訪問の目的





「領台時代の魂を継承する 現地台湾人との家族交流・兄弟交流」

- 11月22日(日) 台北／黄文雄先生による歓迎の夕食会／紫都(写真①②)
- 11月23日(月) 高雄／黄明山・葉美麗ご夫妻による招待夕食会／
海慶澎湖海産(写真③④)
- 11月24日(月) 高雄／高雄市政府(楊明州秘書長)表敬訪問(写真⑤⑥)
台南／奇美博物館見学(写真⑦⑧)
台中／台湾台日海交會(林余立會長)主催の懇親会／
香蕉新樂園餐廳(写真⑨⑩)
- 11月25日(火) 台中／台湾中日海交協會(林政徳會長)主催の懇親会／
大北京晚餐廳(写真⑪⑫)
台北／台日文化經濟協會(黄天麟會長)主催の懇親会／
逸鄉園(写真⑬⑭)
- 11月26日(水) 台北／中華民國總統府見学(写真⑮)
台北／中華民國外交部(李明宗亞東太平洋司總領事回部辦事)
表敬訪問(写真⑯)



①



②



③



④

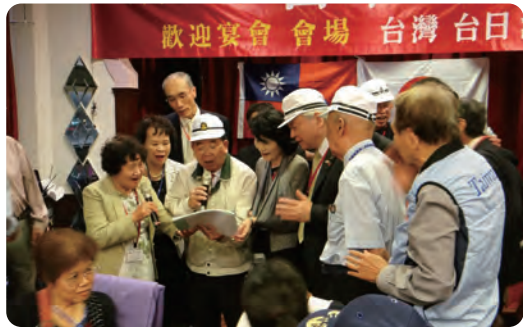


⑤



⑥

台湾訪問の目的



報告集(ライセンスメイト)について

私たちは、ひとりでも多くの国民の皆様には「日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」を知っていただく、団員の皆様の感想文を主体にした報告集として、この季刊誌(第3種郵便物認可)を活用し今日に至っています。それは発送費が助かるからです。(発行所/株式会社日本教育開発)

- ◎この本は訪台時にご歓待された台湾の皆様にも御礼として贈呈しますので、恥ずかしくない装丁でないといけません。中華民国政府(外交部)にも献本できる資質が求められる所以です。
- ◎国内に目を転じれば、団員の皆様のご縁のある方に配付される時、誇りに思えるものでなければなりません。直近の出来事のみならず、この事業の沿革が一目で理解していただけるものでなくてはなりません。
- ◎読んでみたい雰囲気を漂わすだけでなく内容もしっかりしないとといけません。デザイナーの人にも頑張ってもらい、様々な年代、職業、立場、地域の皆様に、すなわち時代に受け入れてもらえるよう工夫と研究を重ねてきたのは、そういう理由からでした。
- ◎英霊の皆様から本当に喜んでもらえるような誌面作り、大東亜戦争に志願し散華された英雄の皆様が、世界史的大事業に参画できた感動を時空を超えて現代の私たち日本人に語りかけることができる媒体、戦死者にあたたかくぬくもりのある刊行物、以上のような報告集作りを目指してきた17年でした。
- ◎結成以来、台湾でご縁の出来た方と訪問団に参加実績のある方を合わせますと優に1,000名になりますので、発行部数もそれだけ必要です。
- ◎刷っただけでは読んでいただけません。よって宅配や郵送、相手先が台湾なら航空便も必要です。
- ◎総じてこれら一切の経費を訪問団員の皆様が均等に負担していただいたからこそ、第17次に至るまでこの事業を継続してこれたのだと思います。(原稿料、執筆料は全てボランティアでお願いしてきました。)
- ◎「公的支援のない公的事業」は団員の皆様をはじめとする民間の熱きご支援なしには一日も立ちゆきません。

この雑誌を作ることは英霊への供養の一環でありますし、紙面をご覧くださいことは、現代に生きる私たちが戦没者の皆様と時間と空間と志(こころざし)を共有できる数少ない機会のひとつだと思います。

ご理解のほど、よろしくお願いたします。

日台の家族(兄弟)交流のあゆみ

平成11年	3月 6日	第1次訪問旅行(3.6~3.9、23名) ※「結団式・解団式」含む...1	平成18年		日航福岡)...50	
	5月 15日	ライセンスメイトにて連載開始...2	5月 14日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)...51	5月 15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...52
	11月 25日	慰霊祭参加(台中・宝賢寺、11.24~11.26、2名)...3	6月 3日	第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス 天神 156名/懇親会 テラホール67名)	6月 3日	第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス 天神 156名/懇親会 テラホール67名)
平成12年	11月 23日	第2次訪問旅行(11.23~11.26、17名) ※「結団式・解団式」含む...4		黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」...53	6月 7日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...54
平成13年	5月 28日	読売新聞一面広告掲載...5		福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...54	10月 1日	第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、特別篇第5弾、10.1、1回)...55
	6月 5日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...6		旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名)	10月 21日	第8次訪問団結団式・壮行会(テラホール70名)...56
	10月 13日	第3次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店60名)...7		福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕記念祝宴参加(八仙閣1名)...57	11月 13日	福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕記念祝宴参加(八仙閣1名)...57
	11月 8日	二の丸会全国農業土木技術連盟九州業界連盟研修会「世界の親日国・台湾の話」講話:小菅玄三郎 随行:古川(ホテル南風樓)...8		役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)...58	11月 20日	第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)...59
	11月 23日	第3次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...9		第3回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄グランドホテル4名)...60	11月 23日	第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)...59
	12月 22日	第3次訪問団結団式・報告会(平和樓本店50名)...10		1月 7日	第5回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)...61	
平成14年	4月 1日	訪問団ホームページ開設...11		1月 27日	第8次訪問団結団式・報告会(平和樓本店68名)...62	
	6月 6日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...12		3月 15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...63	
	6月 8日	許國雄先生告別式参列(高雄・徳生長老教会、6.7~6.9、1名)...13	平成19年	1月 3日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣2名)...64	
	9月 10日	産経新聞に見開き広告掲載...14		1月 7日	第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名)	
	10月 21日	全国の学校(8,443校)にパンフレットを郵送し、台湾への修学旅行先選定を呼びかける ※全国の高等学校5,054校、県内の保育園から大学まで3,389校...15		1月 27日	黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威ー日台はいかに対応すべきか?」...65	
	11月 2日	第4次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店73名)...16		6月 13日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣2名)...66	
	11月 6日	台湾中日海交協会(胡順来会長以下16名)歓迎晩餐会(台湾18名)...17		10月 5日	台湾五十節式典参加(ホテルオークラ10名)...67	
平成15年	11月 23日	第4次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...18		10月 18日	REPの例会会「海の彼方のニッポンを訪ねて」	
	1月 24日	第4次訪問団結団式・報告会(平和樓本店48名)...19		10月 27日	山口秀範先生(国民文化研究会事務局長)「台湾に根づく日本精神ー六士先生を中心に」...22	
	4月 26日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣1名)...20		11月 23日	第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)...69	
	6月 6日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...21		12月 22日	第9次訪問旅行(11.23~11.26、25名)...70	
	6月 7日	第1回台湾特別講演会・懇親会(アーバン・オフィス天神 講演会134名/懇親会36名)		平成20年	1月 3日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店3名)...71
	8月 6日	福岡市中央倫理法人会 例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」卓話:小菅玄三郎 随行:古川(KKRホテル博多)...23		1月 3日	第4回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄グランドホテル4名)...72	
	11月 8日	第5次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)...24		1月 25日	九州建設機械器具リース業協会賞詞交歓会「海の彼方のニッポンを訪ねて」	
平成16年	11月 23日	第5次訪問旅行(11.23~11.26、23名)...25		1月 26日	講話:小菅玄三郎 随行:黄(八仙閣)...73	
	1月 24日	第5次訪問団結団式・報告会(平和樓本店35名)...26		3月 9日	第9次訪問団結団式・報告会(平和樓本店51名)...74	
	2月 22日	第1回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、2.22~3.28、6回)...27		3月 9日	第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.9~4.13、6回)...75	
	4月 29日	台中市日本文化協会(鍾子桓氏以下3名)来訪...28		3月 15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...76	
	5月 23日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣1名)...29		6月 1日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)...77	
	6月 5日	第2回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神83名/懇親会 花万葉54名)		6月 8日	第6回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会123名/懇親会63名)	
	6月 9日	張國興先生(久留米大学法学部教授)「台湾の現状ー総統選挙を中心に」...30		黄文雄先生(文明史家)「日本人の道と精神(こころ)」		
	6月 9日	福岡日華親善協会 定時総会参加(平和樓本店1名)...31		清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授)「日本文化の本質を知ろうー新「教育勅諭」のすすめ」...78		
	6月 20日	沈・呉ご夫妻来訪...32		6月 17日	福岡日華親善協会 定時総会参加(全日空ホテル1名)...79	
	9月 9日	台湾福祉実習団(陳淑氏以下8名)来訪...33		9月 3日	台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和樓本店7名)...80	
	11月 12日	福岡日華親善協会孫中山先生並びに蒋介石先生生誕記念祝宴参加(平和樓本店1名)...34		10月 9日	台湾五十節式典参加(ホテルオークラ15名)...81	
	11月 22日	第6次訪問団結団式・壮行会(アーバン・オフィス天神6名)...35		10月 25日	旅程説明会(平和樓本店18名)	
	11月 23日	第6次訪問旅行(11.23~11.26、8名)...36		第10次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店48名)		
	12月 26日	第2回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、12.26~H.17.1.2、2回)...37		※「東京支部・台湾支部設立」兼ねる...82		
平成17年	1月 3日	第1回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄グランドホテル4名)...38		11月 22日	第10次訪問旅行(11.22~11.26、31名)	
	1月 22日	第6次訪問団結団式・報告会(平和樓本店30名)...39		(A班11.22~26 19名、B班11.23~26、12名)...83		
	6月 4日	第3回台湾特別講演会・懇親会(講演会 テラホール100名/懇親会 チャタムダイニング70名)		12月 14日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...84	
	6月 10日	黄文雄先生(文明史家)「反日教育を煽る中国の大罪ー中国が反日・仇日に転じた本当の理由」...40		平成21年	1月 3日	第5回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄グランドホテル4名)...85
	10月 22日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...41		1月 24日	第10次訪問団結団式・報告会(平和樓本店64名)...86	
	10月 22日	第7次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店51名)...42		2月 22日	第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、2.22~3.29、6回)...87	
	11月 5日	何・陳ご夫妻歓迎晩餐会(平和樓本店16名)...43		3月 9日	台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和樓本店8名)...88	
	11月 14日	福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕記念祝宴参加(八仙閣15名)...44		3月 15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...89	
	11月 23日	第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)...45		5月 24日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店3名)...90	
	12月 11日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店1名)...46		6月 6日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉10名)...91	
平成18年	1月 3日	第2回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄グランドホテル4名)...47		6月 7日	第7回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会170名/懇親会69名)	
	1月 8日	第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)...48		黄文雄先生(文明史家)「台湾と日米中の現在と未来ー台湾と中国の最終戦争は避けられるのか?」柳原憲一先生(西日本台湾学友会会長)「江見政治と竹東大圳ー今、甦る台湾水力発電の父」...92		
	1月 28日	第7次訪問団結団式・報告会(テラホール38名) ※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる...49		6月 14日	産経新聞で「NHKは台湾人に謝罪を!」意見広告掲載...93	
	3月 22日	福岡ライオンズクラブ 例会「今、日本がおかしいー現代に生きる教育勅諭・軍人勅諭」卓話:小菅玄三郎 随行:川添(ホテル				

日台の家族(兄弟)交流のあゆみ

平成21年	9月 7日	李登輝元総統お出迎え(福岡空港43名)...94
	9月 10日	李登輝元総統お見送り(福岡空港26名)...95
	9月 30日	産経新聞で第2回目の「NHKは台湾人に謝罪を！」意見広告掲載...96
10月 31日		産経新聞で第3回目の「NHKは台湾人に謝罪を！」意見広告掲載...97
11月 1日		旅程説明会(平和樓本店20名) 第11次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)...98
11月 21日		産経新聞で「台湾の国連専門機関参加」支援広告掲載...99
11月 22日		第11次訪問旅行(11.22～11.26、30名)...100
11月 29日		台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(八仙閣3名)...101
12月 20日		産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...102
平成22年	1月 3日	第6回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/西鉄グランドホテル4名)...103
	1月 3日	第8回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、年末年始篇第9弾、1.3、1回)...104
	1月 23日	第11次訪問団結団式・報告会(平和樓本店61名)...105
	1月 30日	日本会議福岡中央支部 新春祝賀会「日台の交流—11年の活動を振り返って」 講話:小菅亥三郎 随行者:黄・五郎丸(平和樓本店)...106
	2月 21日	産経新聞で「慰霊を回復して人は国民になる」意見広告掲載...107
	3月 7日	第7回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.7～4.11、6回)...108
	3月 10日	中華民國(台湾)領事着任をお祝する会(稚加栄、4名)...109
	3月 13日	林漢和先生告別式参列(台中・三一基督長老教会、3.13～3.14、2名)...110
	3月 15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...111
	3月 21日	産経新聞で「明石元二郎台湾総督に対する福岡市教育委員会の態度には愛国心が感じられません」意見広告掲載...112
	5月 16日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...113
	6月 5日	第8回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会172名/懇親会58名) 明石元紹先生(明石元二郎公孫孫・画家)黄文雄先生(文明史家) 「郷土福岡が生んだ世界的英雄・偉人一明石元二郎台湾総督の生涯」...114
	6月 27日	台北駐福岡経済文化辦事處 周碩頌處長送別会(団長宅12名)...115
	8月 4日	産経新聞で「日台の生命の絆死守せむと吾日本の一角に起つ」意見広告掲載...116
	9月 25日	日本会議福岡中央支部 西部地区懇談会「日本と台湾は運命共同体—台湾防衛は英霊との約束」 講話:小菅亥三郎 随行者:原田・池田・黄(アーバン・オフィス天神)...117
	10月 8日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ12名)...118
	10月 14日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長歓迎会(松幸26名)...119
	10月 23日	旅程説明会(平和樓本店21名) 第12次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店63名)...120
	11月 21日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...121
	11月 22日	第12次訪問旅行(11.22～11.26、46名)(A班11.22～26 35名、B班11.24～26 11名)...122
平成23年	1月 3日	第7回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/西鉄グランドホテル4名)...123
	1月 22日	第12次訪問団結団式・報告会(平和樓本店65名)...124
	2月 23日	福岡西ライオンズクラブ 例会「教育勸語・軍人勸諭」 卓話:小菅亥三郎 随行者:高山(西鉄グランドホテル)...125
	3月 15日	台北駐那覇経済文化辦事處 粘信士處長表敬訪問(3.15～3.16、4名)...126
	4月 3日	第10回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.3～5.8、6回)...127
	4月 23日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...128
	5月 28日	産経新聞で「日本の為に従軍して戦死された台湾人の慰霊に参加するのは日本人の義務である」意見広告掲載...129
	6月 4日	第9回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会159名/懇親会71名) 黄文雄先生(文明史家)「中国が沖縄を獲る日—中国の「干船保釣」を打ち砕こう!」...130
	6月 12日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店7名)...131
	6月 15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...132
	6月 24日	産経新聞で「奉納した龍柱と銘板に感動」意見広告掲載...133
	7月 3日	中華民國建国100年「聖火リレー」福岡到着記念撮影会参加(福岡市南公園2名)...134
	7月 6日	あすなろ会 例会「台湾はなぜ世界一の親日国なのか—日華(台)親善友好慰霊訪問団団長12年の体験から」卓話:小菅亥三郎 随行者:池田・黄・五郎丸・高山(ハーベストビル会議室)...135
	7月 24日	産経新聞で「真実で尊い行動は必ず継続される」意見広告掲載...136
	8月 21日	産経新聞で「台湾との絆の強化は日本再生への道」意見広告掲載...137
	9月 13日	福岡県立嘉穂高等学校修学旅行事前学習「台湾修学旅行～台
平成23年		湾はどういう国なのか」講話:黄楷榮 随行者:池田(視聴覚教室)...138
	9月 29日	産経新聞で「魂の奥の不思議なふれあいを感じる唯一の国・台湾」意見広告掲載...139
	10月 7日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...140
	10月 17日	産経新聞で「台湾での新発見、そして再発見」意見広告掲載...141
	10月 22日	旅程説明会(平和樓本店26名) 第13次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店67名)...142
	11月 20日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...143
	11月 21日	産経新聞で「日本人は真の親日国家である台湾を見誤ることなかれ」意見広告掲載...144
	11月 21日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長主催懇親会(鴻臚6名)...145
	11月 22日	第13次訪問旅行(11.22～11.26、45名)(A班11.22～26 38名、B班11.24～26 7名)...146
	12月 25日	産経新聞で「日本語世代の方はかけがえのない日本の宝です」意見広告掲載...148
平成24年	1月 3日	第8回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/西鉄グランドホテル4名)...149
	1月 6日	中華民國建国100年祝賀式典参加(ホテルオークラ1名)...150
	1月 19日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長謝恩新年会(千羽鶴6名)...151
	1月 21日	第13次訪問団結団式・報告会(平和樓本店65名)...152
	1月 26日	産経新聞で「日本人のアイデンティティを取り戻す巡礼の旅」意見広告掲載...153
	2月 22日	産経新聞で「この度の総統選挙のご当選、誠にめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。」意見広告掲載...154
	3月 25日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...155
	4月 1日	第9回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.1～5.6、6回)...156
	4月 29日	産経新聞で「第10回台湾特別講演会」意見広告掲載...157
	5月 13日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...158
	5月 16日	台湾総統就任記念茶話会参加(平和樓本店3名)...159
	6月 1日	産経新聞で「恥ずかしい」と「感謝」の訪問」意見広告掲載...160
	6月 2日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉13名)...161
	6月 3日	第10回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会167名/懇親会79名) 基調講演:黄文雄先生(文明史家)「日本と台湾の過去・現在・未来～私たちが目指すべき日台の関係」 /パネルディスカッション:黄文雄先生(文明史家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・柳原憲一先生(西日本台湾学友会会長)「東日本大震災から見た日台の生命の絆～台湾国民は、何故世界のご支援をして下さったのか」...162
	6月 7日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...163
	6月 15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...164
	7月 15日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆(1)」意見広告掲載...165
	7月 16日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆(2)」意見広告掲載...166
	10月 5日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ5名) ※主催者より直接案内送付のため、今回から反省会参加者とする...167
	10月 6日	台湾支部事務局長(黄楷榮)婚約式参列(高雄・饜巴黎大飯店、10.6～10.8、2名)...168
	10月 13日	旅程説明会(平和樓本店18名) 第14次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店69名)...169
	10月 26日	台湾支部事務局長(黄楷榮)結婚式参列(基隆・豪鼎飯店、10.26～10.28、2名)...170
	11月 8日	中華民國(台湾)領事着任をお祝する会(江藤家、4名)...171
	11月 18日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...172
	11月 22日	第14次訪問旅行(11.22～11.26、38名)(A班11.22～26 32名、B班11.24～26 6名)...173
	12月 23日	第12回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、年末年始篇第12弾、12.23、1回)...174
平成25年	1月 3日	第9回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/西鉄グランドホテル4名)...175
	1月 26日	第14次訪問団結団式・報告会(平和樓本店73名)...176
	2月 23日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長送別会(千羽鶴13名)...177
	2月 24日	第13回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.24～3.31、6回)...178
	3月 6日	福岡日華親善協会 台北駐日経済文化代表處 沈斯淨代表歓迎宴参加(ホテル日航福岡1名)...179
	3月 20日	日台交流教育会 創立40周年記念懇親会参加(アルカティアケ台1名)...180
	3月 26日	第11回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神15名)...181
	4月 23日	第11回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィ

日台の家族(兄弟)交流のあゆみ

平成25年	5月28日	ス天神17名)...182 第11回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 20名)...183	平成26年	11月24日	第16次訪問団高雄市政府(李永得副市長、張乃千社會局長)表敬訪問※高雄市爆発事故復興支援義援金(619000円、台湾元3000元/122名)...227
	6月 1日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉 10名)...184		12月16日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(八仙閣 5名)...228
	6月 2日	第11回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会195名/懇親会134名) 基調講演:黄文雄先生(文明史家)「思想的背景から見た日台の魂の交流～日本人の生と死を見つめながら魂の深層を探る」/パネルディスカッション:黄文雄先生(文明史家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「今後の日本と台湾の真の交流について～私たちがめざすべき日台の関係」...185		12月19日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催忘年会(タワーイベントハウス 2名)...229
	6月 3日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)美祿市表敬訪問...186	平成27年	1月13日	第11回台湾人留学生初詣おせち会(ホテルニューオータニ 4名)...230
	6月 4日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)山口市表敬訪問...187		1月24日	第16次訪問団解任式・報告会(平和樓本店 82名)...231
	6月 4日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)慰労会(団長宅 11名)...188		2月22日	第15回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.22～3.29.6回)...232
	6月15日	第11回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン・オフィス天神 22名)...189		3月25日	第13回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神 22名/懇親会13名)...233
	6月15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...190		4月13日	山口県美祿市総合観光部(藤沢和昭部長以下7名) 来訪...234
	6月16日	ニュー有楽お別れ総会参加(平和樓本店 1名)...191		4月22日	第13回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神 17名/懇親会7名)...235
	6月21日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長歓迎会(千羽鶴 18名)...192		4月26日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加(八仙閣 3名)...236
	6月29日	林徳華先生告別式参列(台中・林家宅、6.28～6.30.3名)...193		5月20日	第13回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 23名/懇親会 9名)...237
	6月29日	御創立記念日献詠披露式出席(靖国神社、6.29～6.30.1名)...194		5月23日	産経新聞に一面広告掲載...238
	6月30日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加(平和樓本店 2名)...195		6月10日	第13回台湾特別講演会 実行委員会幹事会(アーバン・オフィス天神 6名)...239
	7月18日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催懇親会(Sol 9名)...196		6月15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...240
	10月 4日	台湾双十節式典参加(グランドハイアット 12名)...197		6月16日	沖縄県中管倫理法人会 例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」卓話:小菅玄三郎 随行:なし(プラザハウス)...241
	10月12日	旅程説明会(平和樓本店 9名) 第15次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 69名)...198		6月17日	第13回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン・オフィス天神 25名/懇親会 8名)...242
	10月20日	台日文化交流会 許世楷先生講演会参加(西南学院大学コミュニケーションセンター 1名)...199		6月21日	第13回台湾特別講演会・交流会(西鉄グランドホテル 講演会338名/交流会141名) 基調講演:黄文雄先生(文明史家)「太陽花學生運動 統一地方選 そして総統選へー台湾の若者が示した勇気と献身」/パネルディスカッション「終戦70年と私たちの課題ー[KANO]を制作した台湾の言語空間」:黄文雄先生(文明史家)「ネット世代に活路を見出す台湾の言語空間ー華英秩序からの脱却」:施光恒先生(九州大学大学院准教授)「想像力の回復に向けて」:柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「領台初期の台湾語教育とその影響」...243
	11月 1日	中華民國(台湾)福岡領事着任をお祝する会(花万 6名)...200		7月11日	産経新聞に一面広告掲載(「福岡宣言」発表)...244
	11月10日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(平和樓本店 5名)...201		7月11日	第13回台湾特別講演会 第5回実行委員会・慰労会(西鉄グランドホテル 23名)...245
	11月22日	第15次訪問旅行(11.22～11.26.32名)(A班11.22～26.28名、B班11.24～26.4名)...202		8月 8日	台日文化交流会 排湾古謡コンサート(西南学院大学コミュニケーションセンター 1名)...246
	12月29日	高雄市鳳山紅毛港保安堂安座式典参加(12.28～12.30.3名)...203		9月14日	保安堂靖國参拝団(洪海上氏以下32名)お出迎え(靖国神社 11名/明治神宮8名)...247
平成26年	1月 3日	第10回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄グランドホテル4名)...204		10月 9日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ 10名)...248
	1月25日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催送別会(處長邸2名)...205		10月10日	旅程説明会(平和樓本店 15名) 第17次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 93名) ※「沖縄支部設立」兼ねる...249
	1月25日	第15次訪問団解任式・報告会(平和樓本店63名)...206		10月31日	台日文化交流協会 桜井真先生講演会参加(福岡市市民福祉プラザ 2名)...250
	2月23日	第14回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.23～3.30.6回)...207		11月18日	日本道經会福岡支部 例会「海の彼方のニッポンを訪ねてーなぜいま「軍人勸諭」か」 卓話:小菅玄三郎 随行:なし(八仙閣 1名)...251
	3月23日	東龍宮(石籠界守以下6名) 歓迎晩餐会(千羽鶴8名)...208		11月22日	第17次訪問旅行(11.22～11.26.32名)(A班11.22～26.30名、B班11.24～26.2名)...252
	3月26日	第12回台湾特別講演会実行委員会(アーバン・オフィス天神 17名)...209		12月13日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(ヒルトンシーホーク 3名)...253
	3月27日	中華民國(台湾)領事着任をお祝する会(花万3名)...210		12月14日	中華民國(台湾)領事着任をお祝する会(松風 4名)...254
	3月29日	富安宮新廟落慶法要参列(嘉義・富安宮1名)...211		12月25日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催忘年会(タワーイベントハウス 2名)...255
	4月22日	第12回台湾特別講演会・実行委員会(アーバン・オフィス天神 23名)...212	平成28年	1月 5日	第12回台湾人留学生初詣おせち会(水鏡天満宮/花万葉 10名)...256
	4月27日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣3名)...213		1月23日	第17次訪問団解任式・報告会(平和樓本店 72名) 掲載記事:産経新聞1月24日、フクニ住宅新聞2月5日、日本時事評論2月19日...257
	5月18日	産経新聞に「第12回台湾特別講演会」全面広告掲載...214		2月17日	第14回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神 9名)...258
	5月28日	第12回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 25名)...215		2月21日	第16回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.21～3.27.6回)...259
	6月 7日	台湾支部事務局長歓迎晩餐会(海幸 6名)...216		3月16日	第14回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神 18名/懇親会11名)...260
	6月 8日	第12回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会301名/交流会149名) 基調講演:黄文雄先生(文明史家)「日本人が台湾に遺した武士道精神～台湾と日本を結ぶ日本精神」/パネルディスカッション:「私たちは日本を取り戻す」:黄文雄先生(文明史家)「私たち原日本人は大切なものを忘れてしまった」:施光恒先生(九州大学大学院准教授)「台湾の中のニッポン～日本人が取り戻すべき心とは」:柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「台湾人戦死死傷者の遺書について」...217		4月 7日	山口県美祿市総合観光部(古川和則所長以下2名)来訪...261
	6月15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...218		4月23日	第14回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 16名/懇親会8名)...262
	6月17日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣 1名)...219		4月26日	黄明山支部長台南市政府(鄭俊傑社會局秘書室主任)表敬訪問※台南市地震被害復興支援義援金(363000円/88名)...263
	6月21日	第12回台湾特別講演会 第4回実行委員会・慰労会(アーバン・オフィス天神 26名/花万葉 30名)...220		5月18日	第14回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン・オフィス天神 19名/懇親会10名)...264
	8月16日	胡順来先生告別式参列(台中・篤行基督長老教会、8.15～8.17.2名)...221		5月28日	産経新聞に一面広告掲載...265
	10月 7日	台湾双十節式典参加(グランドハイアット 6名)...222			
	10月11日	旅程説明会(平和樓本店 22名) 第16次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 71名)...223			
	10月22日	台日文化交流会 桜井真先生講演会参加(福岡国際ホール 1名)...224			
	11月14日	台北駐福岡経済文化辦事處主催 映画「KANO」試写会(T・ジョイ博多 8名)...225			
	11月22日	第16次訪問旅行(11.22～11.26.48名)(A班11.22～26.45名、B班11.24～26.3名)...226			

和のために共に血と汗を流した者同士の兄弟感・一体感はかくして形成されたのであります。台湾の皆様が五十年間の日本統治時代の伝統や文化、はては「大和魂」を高く評価し、これを日本精神として継承している世界に類を見ない親切的な国家・国民である由縁はここに淵源があるのです。

五十年に及ぶ日本統治が今日に至るまで脈々と生き続ける台湾。この「生命の絆」を守り育て後に続く人に正しく継承していくことが、先達から託された崇高な使命です。それは今日の私たち日本人に民族としての自覚と誇りを高めてゆく契機になるからです。

さて今年六月、私たちは第十三回台湾特別講演会を開催しましたが、参加者三百三十八名の皆様とともに「福岡宣言」を採択しました。日清講和条約締結百二十年を記念する年に日台交流の歴史をひも解き、大東亜戦争終戦七十年を総括する形で出されたこの宣言を、私たちは両国の近未来を照らす指針として定着させていく所存です。

平成十一年以来、私達は宝鏡寺における「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列させていただき、二万三千余柱の御霊の安らかならんことをお祈りしてまいりました。今年は「靈安故郷碑」建碑二十五年の記念すべき年です。今後も、この顕彰事業を風化させることなく、更に充実・拡大し、「日台の魂の交流事業」として次世代に継承していきます。それはこの道こそが「日本人として散華された英霊」にお応えする務めであるからです。

以上の決意も新たに、わが国の近代史に比類なき勇氣と献身を刻まれた英霊のご遺徳を偲び、御霊の平安を心より祈念し、慰霊の言葉といたします。

日台の生命の絆

死守せむと

吾日本の一角に起つ

平成二十七年

民國百四年

皇紀二千六百七十五年

十一月二十五日

日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅 亥三郎

台湾訪問の旅 訪台者一覽 (第1次より第17次までの団員304名)

- | | | | | | |
|--------|--------------|--------|--------|---------|--------|
| 青木 繁政 | 井上 昌俊 | 小川 聡子 | 河野 一寿 | 小菅 紀武吾 | 塩先 晋照 |
| 赤松 公昭 | 井上 誠二 | 小倉 和彦 | 神田 橋 勉 | 小菅 亥三郎 | 重松 源吉 |
| 浅見 晃甲 | 井上 理恵子 | 小倉 弘子 | 木須 治彦 | 小菅 順子 | 重松 博子 |
| 阿部 敏彦 | 井口 セツ子 | 小倉 美帆 | 北浜 道 | 小菅 健太郎 | 篠原 章好 |
| 阿部 雅俊 | 井原 四郎 | 小副川 克江 | 木付 辰生 | 小菅 野 聖也 | 柴田 知則 |
| 阿部 政美 | 今村 之昭 | 鬼塚 芳治 | 木付 靖子 | 小松 友子 | 柴田 好章 |
| 新垣 和也 | 岩重 誠 | 小野 辰治 | 城所 尚代 | 小松 正隆 | 柴田 英明 |
| 荒津 雅也 | 岩淵 宣仁 | 小野 正明 | 木下 嘉平 | 小柳 陽太郎 | 島 啓三 |
| 荒牧 賢二 | 岩元 照周 | 小野 実里 | 木村 権作 | 五郎丸 浩 | 島 むつみ |
| 有吉 忠助 | 岩本 宣善 | 小濱 善和 | 木村 賢二 | 五郎丸美佐江 | 下田 健一 |
| 有吉 弘子 | ウイクラムスレンドラサニ | 折居 一志 | 木村 秀人 | 齋藤 梅子 | 下田 純子 |
| 安藤 政明 | 牛島 康智 | 折居 正規 | 木村 孝子 | 坂田 弘 | 白水 キミ子 |
| 安藤 由紀子 | 江頭 伸一 | 柿元 慎司 | 木村 武子 | 坂田 照子 | 新開 崇司 |
| 飯島 志津子 | 江崎 君公 | 加藤 聖三 | 清瀬 武子 | 阪中 三幸 | 新谷 章 |
| 家村 茂美 | エドワーズ博美 | 梶栗 勝敏 | 清瀬 空 | 坂本 彰 | 菅沼 寛 |
| 池田 裕二 | 大嶋 俊英 | 柏田 伸幸 | 桐谷 勝 | 櫻井 英夫 | 菅沼 由美 |
| 石川 秀久 | 太田 玲子 | 柏原 正弘 | 桐野 尚枝 | 佐護 美和子 | 杉山 雄一 |
| 石原 章臣 | 大塚 ヨシ子 | 金澤 明夫 | 桐野 隆徳 | 佐々木 建城 | 角 洋一郎 |
| 石原 一二三 | 大西 敬吾 | 金澤 千代美 | 國武 利貴弥 | 佐々木 朗子 | 妹尾 和之 |
| 石原 祐教 | 大西 雅樹 | 金澤 礼 | 國友 健男 | 佐々木 佳重 | 関 文彦 |
| 市川 憲三 | 大橋 昭仁 | 我那覇 真子 | 倉田 栄 | 佐竹 聖子 | 高須賀 俊一 |
| 伊藤 清子 | 大庭 道夫 | 金子 孝夫 | 倉田 光男 | 佐竹 秀三 | 高田 信一 |
| 伊来 徹夫 | 大林 さやか | 金子 武士 | 黒田 務 | 佐竹 冬子 | 高野 治成 |
| 井手田 洋基 | 大田 猛 | 亀淵 喜久子 | 小池 房子 | 佐藤 冬子 | 高橋 成子 |
| 稲田 健二 | 岡田 敏江 | 茅野 輝章 | 黄 楷 | 佐藤 吉彦 | 高原 裕之 |
| 井上 俊治 | 緒方 俊美 | 茅野 紀子 | 古賀 誠 | 佐藤 健三 | 高間 光 |

『日華(台)親善友好慰霊訪問団を代表し、
原台湾人元日本兵軍人軍属三万三千余柱の御霊の御前にて
慎んで祭文を奏上いたします』

祭文

『清國八記ノ土地ノ主權並ヒニ該地方ニ在ル、城壘、兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス
一、遼東半島
一、台湾全島及其ノ附屬諸島嶼
一、澎湖列島(『日清講和条約第二條』より)』

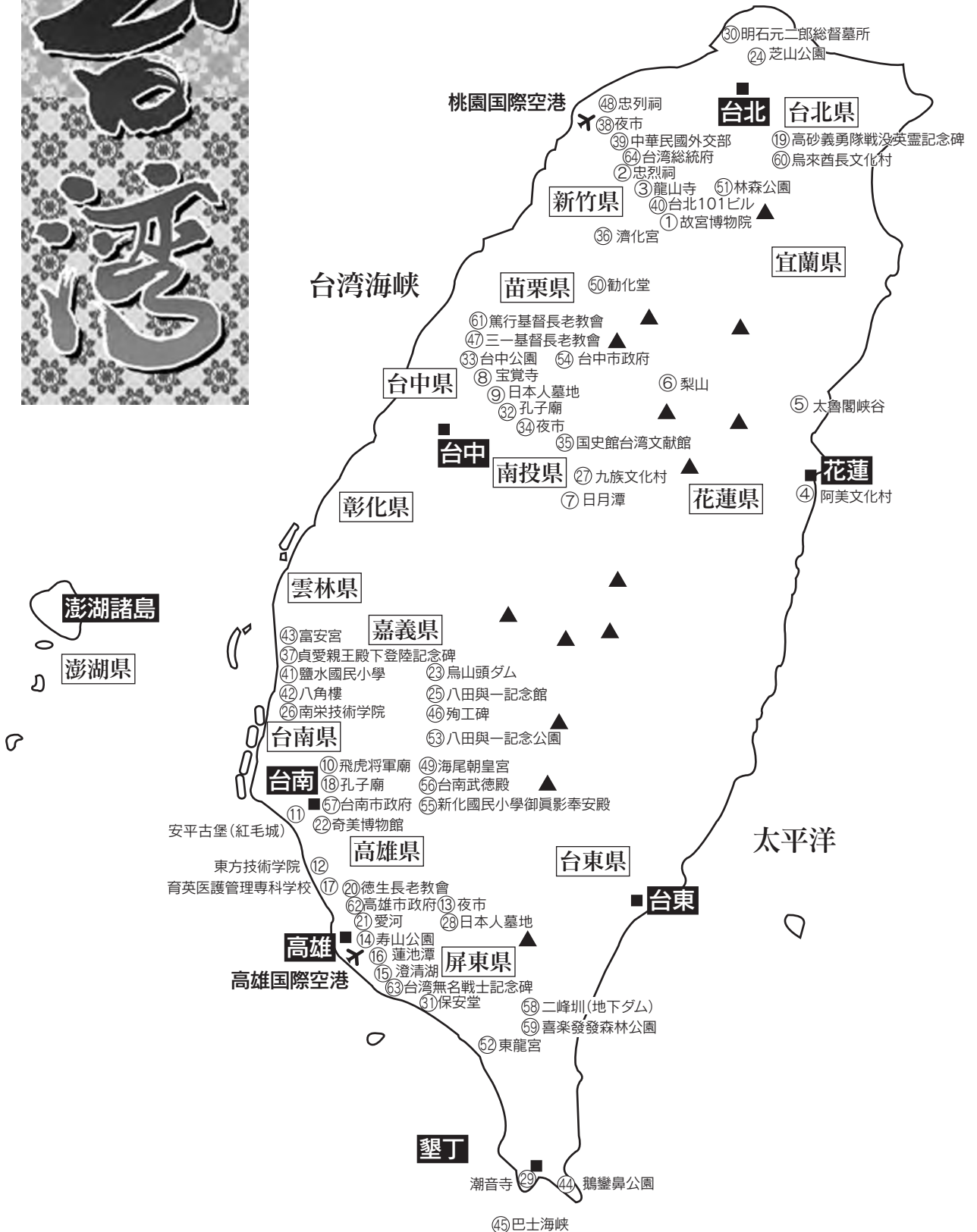
明治二十八年四月十七日、下関の春帆樓における日清講和会議の結果、台湾は日本に割譲されました。明治四年の牡丹社事件の際、日本側全権副島種臣に対し、清国皇帝をして「化外の地」と言わしめた台湾が名実ともに日本に帰属した瞬間です。爾来、百二十年に及ぶ日台関係はこの時をもつて起点とするが、台湾の歩みは華夷秩序から限りなく離脱する軌跡を描いて今日に至っています。

日清戦争によって朝鮮を支那の冊封体制から解き放ったわが国にとつて、時代こそ違え、欧米白人種の圧政に呻吟するアジアをその鉄鎖の軛から解放せんと開始した大東亜戦争は、いわば歴史の必然ともいえるものでした。今、英霊として眠っておられる皆様は、南海の島々や熱帯の密林においては白人圧政者と、また支那大陸においては蒋介石率いる重慶政権や毛沢東の共産匪賊と生死を賭けて戦った同胞でした。とりわけ七百倍ともいわれる難関を突破し、血書歎願をしてまで志願してこられた皆様は、日本人以上の日本人として歴史に残る勇猛果敢さを発揮され、敵を圧倒し倒しましたのであります。

昭和二十年、陛下は三年と九ヶ月に亘る大東亜戦争の終戦を宣言しましたが、わが国は国家の尊厳と民族の名譽を死守し、大東亜解放の壮図を成し遂げました。とまれ、わが国が軍事的敗北を余儀なくされたとはいえ、四百年以上に及ぶ欧米列強の植民地支配に終止符をうち、アジアにおける全ての權益を失わせしめたのは紛れもない世界史の事実であります。

これを偉業といわずして一体何と呼べばいいのでしょうか。陛下の臣民として東洋平

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 竹下尚志 | 徳田慎也 | 永吉正紀 | 平尾武敏 | 又丸齊次 | 山口英明 |
| 田尻雄一 | 戸田幸雄 | 名越讓二 | 平尾文洋 | 松岡祐貴 | 山下希子 |
| 田中伯央 | 富田昇一 | 名越美智子 | 平永明伍 | 松下美佳 | 山下賢悟 |
| 田中純夫 | 富原浩 | 成田千秋 | 平永由子 | 松下実 | 山田悟 |
| 田中秀男 | 堂端聖子 | 南條實 | 平野和彦 | 松俵義博 | 山本正博 |
| 田中キミヨ | 尾博憲 | 西田一也 | 平松扶二 | 松俵茂子 | 山本久洋 |
| 田中美咲 | 中島公明 | 西山洋 | 廣石有美 | 松永垂弥 | 横尾秋勝 |
| 田中道夫 | 中島重夫 | 庭木正二郎 | 廣瀬智子 | 松葉邦子 | 横山美勲 |
| 田中秀幸 | 中嶋大介 | 野口ヨシエ | 福岡滋子 | 篠原政裕 | 吉武周司 |
| 谷亜希子 | 中島信輔 | 野田正治 | 福田史子 | 三好誠 | 吉田喜久子 |
| 谷尾侃 | 中野公浩 | 野見山優亮 | 福田洋子 | 向井淳合子 | 吉田恭二 |
| 谷口祐子 | 中野一則 | 羽音修平 | 藤田達男 | 村山初美 | 吉村恭二 |
| 田村邦明 | 中畑利介 | 濱田修 | 藤末潔 | 村山敬惠 | 吉村幸徳 |
| 反田邦彦 | 中村哲 | 原千里 | 藤末耕一郎 | 森晴治 | 頼永博朗 |
| 反田由美子 | 中村卓 | 林克紀 | 藤村一 | 森靖子 | 力武崇樹 |
| 團宝誠 | 中村朝子 | 原田和典 | 船津邦彦 | 森靖子 | 脇山博文 |
| 陳怡勲 | 中村那津子 | 原田種雄 | 星野孝典 | 森岡敬子 | 渡邊一弘 |
| 塚田征二 | 中村英夫 | 原田經子 | 星野友秀 | 森下学 | 渡邊瑞枝 |
| 塚本能久 | 中山茂 | 原田泰宏 | 本田茂夫 | 守田昭雄 | |
| 辻森弘美 | 中山雄夫 | 東昭臣 | 本田和代 | 矢ヶ部大輔 | |
| 土山彬 | 永石辰郎 | 久野智教 | 堀川克巳 | 安河内康彦 | |
| 津留毅 | 永田昌巳 | 久野睦子 | 本間潤子 | 八尋妙子 | |
| 津留修輔 | 永田タマリ | 日高誠 | 本間治義 | 山鹿好史 | |
| 鶴田栄一郎 | 永濱武司 | 日吉淳治 | 前田マツヨ | 山口自然 | |
| 鶴澤美枝子 | 永濱浩之 | 日吉悦子 | 前原清美 | 山口秀範 | |
| 出口清 | 永瀨裕章 | 平泉弘美 | 前原照美 | 山口智子 | |



〈一目でわかる訪問先・交歓先〉

〈訪問先〉(訪問年月日順/日付は初回訪問日)

- ①故宮博物院 / H11.3.6
- ②忠烈祠(台北) / H11.3.6
- ③龍山寺 / H11.3.6
- ④阿美文化村 / H11.3.6
- ⑤太魯閣峡谷 / H11.3.7
- ⑥梨山 / H11.3.7
- ⑦日月潭 / H11.3.7
- ⑧宝覺寺 / H11.3.8
- ⑨日本人墓地(台中) / H11.3.8
- ⑩飛虎將軍廟 / H11.3.8
- ⑪安平古堡(紅毛城) / H11.3.8
- ⑫東方技術学院(旧東方工商專科學校) / H11.3.8
- ⑬夜市(高雄・六合路) / H11.3.8
- ⑭寿山公園 / H11.3.9
- ⑮澄清湖 / H11.3.9
- ⑯蓮池潭 / H11.3.9
- ⑰育英醫護管理專科學校 / H12.11.24
- ⑱孔子廟(台南) / H12.11.24
- ⑲高砂義勇隊戦没英霊記念碑 / H13.11.26
- ⑳徳生長老教會 / H14.6.8
- ㉑愛河 / H14.11.23
- ㉒奇美博物館 / H14.11.24
- ㉓烏山頭ダム(烏山頭水庫) / H14.11.24
- ㉔芝山公園 / H14.11.26
- ㉕八田與一記念館 / H15.11.24
- ㉖南栄技術学院 / H15.11.24
- ㉗九族文化村 / H15.11.25
- ㉘日本人墓地(高雄) / H16.11.23
- ㉙潮音寺 / H16.11.24
- ㉚明石元二郎総督墓所 / H16.11.26
- ㉛保安堂 / H17.11.23
- ㉜孔子廟(台中) / H17.11.25
- ㉝台中公園 / H17.11.25
- ㉞夜市(台中・中華路) / H17.11.25
- ㉟国史館台湾文献館 / H17.11.25
- ㊱濟化宮 / H17.11.25
- ㊲貞愛親王殿下登陸記念碑 / H19.11.24
- ㊳夜市(台北・士林区) / H19.11.25
- ㊴中華民國外交部 / H19.11.26
- ㊵台北101ビル / H19.11.26
- ㊶鹽水國民小學 / H20.11.24
- ㊷八角樓 / H20.11.24
- ㊸富安宮 / H20.11.24
- ㊹鵝鑾鼻公園 / H21.11.23
- ㊺巴士海峡 / H21.11.23
- ㊻殉工碑 / H21.11.24
- ㊼三一基督長老教會 / H22.3.13

- ㊽忠列祠(桃園) / H22.3.14
- ㊾海尾朝皇宮 / H22.11.23
- ㊿勸化堂 / H22.11.25
- ㊿林森公園 / H23.11.22
- ㊿東龍宮 / H23.11.23
- ㊿八田與一記念公園 / H23.11.24
- ㊿台中市政府 / H23.11.24
- ㊿新化國民小學御眞影奉安殿 / H24.11.23
- ㊿台南武徳殿 / H24.11.23
- ㊿台南市政府 / H24.11.23
- ㊿二峰圳(地下ダム) / H25.11.23
- ㊿喜楽發發森林公園 / H25.11.23
- ㊿烏來酋長文化村 / H25.11.26
- ㊿篤行基督長老教會 / H26.8.16
- ㊿高雄市政府 / H26.11.24
- ㊿台湾無名戦士記念碑 / H28.11.23
- ㊿台湾総統府 / H28.11.26



現地メディアの取材を受ける小管団長(台北)

〈交歓先〉(交歓年月日順/日付は初回交歓日)

- 許國雄先生 / H11.3.8
台湾中日海交協会 / H11.11.24
蘇金淵先生 / H11.11.25
蕭興從先生 / H11.11.25
詹徳寛先生 / H14.11.23
許文龍先生 / H14.11.24
何怡涵・陳清華ご夫妻 / H15.11.24
台灣台日海交會(旧「台灣台日海交聯誼會」) / H16.11.24
台中市日本文化協會 / H16.11.25
王春茂・馮英鳳ご夫妻 / H16.11.25
沈芳以・呉月雲ご夫妻 / H17.11.25
蔡焜燦先生 / H18.11.26
台日文化經濟協會 / H18.11.26
黄明山・葉美麗ご夫妻 / H20.11.24
黄崑虎先生 / H21.11.24
ラバウル會 / H22.11.24
黄文雄先生 / H25.11.22

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
第1次訪問 23名 H.11.3.6～9 土～火 ガイド 李 燕光 神僧職 なし 旅行社 ヤマトトラベル (15ヶ所)	①故宮博物院 ②忠烈祠 ③龍山寺 ④阿美文化村 (花蓮泊)	⑤太魯閣峡谷 ⑥梨山 ⑦日月潭 (日月潭泊)	⑧宝覚寺 →日本人墓地(慰霊式) ⑨飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩安平古堡 ⑪東方工商専科学校 →交歓会(許國雄先生) ⑫夜市 (高雄泊)	⑬寿山公園 ⑭澄清湖 ⑮蓮池潭
第2次訪問 17名 H.12.11.23～26 木～日 ガイド 陳 賜賢 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④育英医護管理専科学校 →東方工商専科学校 →交歓会(許國雄先生) ⑤孔子廟 ⑥安平古堡 ⑦飛虎將軍廟(慰霊式) (台中泊)	⑧宝覚寺→ 日本人墓地(慰霊式) →靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	
第3次訪問 38名 H.13.11.23～26 金～月 ガイド 陳 賜賢 神僧職 古賀靖啓 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①故宮博物院 ②夜市 (高雄泊)	③東方工商専科学校 →交歓会(許國雄先生) ④孔子廟 ⑤安平古堡 ⑥飛虎將軍廟(神事) (台中泊)	⑦宝覚寺→日本人墓地(神事) →靈安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	⑨高砂義勇隊戦没英霊 記念碑(神事)
第4次訪問 38名 H.14.11.23～26 土～火 ガイド 呂 見涛 神僧職 古賀靖啓・田村邦明 旅行社 近畿日本ツーリスト (12ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③愛河→交歓会 (詹徳寛先生) ④夜市 (高雄泊)	⑤孔子廟 ⑥奇美博物館 →交歓会(許文龍先生) ⑦飛虎將軍廟(神事) ⑧烏山頭ダム (台中泊)	⑨宝覚寺→日本人墓地(神事) →靈安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑩交歓会(台湾中日海交協会) ⑪日月潭 (台中泊)	⑫芝山公園(慰霊式)
第5次訪問 23名 H.15.11.23～26 日～水 ガイド 呂 見涛 神僧職 堀川克巳 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①飛虎將軍廟 (神事) (台南泊)	②烏山頭ダム→八田與一・ 外代樹夫妻墓所(神事) →八田與一記念館 ③奇美博物館 →交歓会(許文龍先生) ④南栄技術学院 ⑤交歓会(何怡涵・陳清華 ご夫妻) (台中泊)	⑥宝覚寺→日本人墓地(神事) →靈安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑦九族文化村 ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台中泊)	⑨芝山公園(慰霊式)
第6次訪問 8名 H.16.11.23～26 火～金 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (11ヶ所)	①日本人墓地 (慰霊式) ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④潮音寺(慰霊式) ⑤飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥交歓会(台湾台日海交聯 誼會) (台中泊)	⑦宝覚寺→日本人墓地(慰霊式) →靈安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) ⑨交歓会(台中市日本文化協會) ⑩交歓会(王春茂・馮鳳凰ご夫妻) (台中泊)	⑪明石元二郎総督墓所 (慰霊式)

※ →について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第7次訪問 20名 H.17.11.23～26 水～土 ガイド 林英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (14ヶ所)	①保安堂(献花式) ②寿山公園 ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	④飛虎將軍廟(慰霊式) ⑤奇美博物館 ⑥烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式) ⑦交歓会(台湾台日海交聯誼會)	⑧宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) ⑩交歓会(台中市日本文化協會)→孔子廟→台中公園 ⑪交歓会(沈芳以・呉月雲ご夫妻) ⑫夜市	⑬明石元二郎総督墓所(慰霊式) ⑭芝山公園(慰霊式)	
第8次訪問 35名 H.18.11.23～26 木～日 ガイド 簡添宗 神僧職 なし 旅行社 協進観光 (12ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	③飛虎將軍廟(慰霊式) ④奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ⑤烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念館 ⑥交歓会(台湾中日海交協会)	⑦宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台湾台日海交會)※台中市日本文化協會合流 ⑨國史館台湾文獻館(調査) ⑩清化宮(献花式)	⑪高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⑫講話(蔡煌燦先生)→交歓会(台日文化經濟協會)	
第9次訪問 25名 H.19.11.23～26 金～月 ガイド 簡添宗 神僧職 なし 旅行社 協進観光 (14ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	④飛虎將軍廟(慰霊式) ⑤烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念館 ⑥貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑦交歓会(台湾台日海交會)※台中市日本文化協會合流	⑧宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) ⑩清化宮(献花式) ⑪夜市	⑫中華民國外交部 ⑬台北101ビル ⑭交歓会(台日文化經濟協會)	
第10次訪問 31名 H.20.11.22～26 土～水 ガイド 簡添宗 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (19ヶ所)	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ②芝山公園(慰霊式)	③保安堂(慰霊式) ④東方技術学院 ⑤奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	⑧烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念館 ⑨鹽水國民小學→八角樓 ⑩交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) ⑪貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑫富安宮 ⑬交歓会(台湾台日海交會)	⑭宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑮交歓会(台湾中日海交協会) ⑯清化宮(献花式) ⑰夜市	⑱中華民國外交部 ⑲交歓会(台日文化經濟協會)

※ →について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第11次訪問 30名 H21.11.22～26日～木 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) (墾丁泊)	②鵝鑾鼻公園 ③潮音寺(慰霊式) ④巴士海峡(献花式) ⑤奇美博物館→ 交歓会 (許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦交歓会 (黄明山・葉美麗 ご夫妻) ⑧夜市 (高雄泊)	⑨烏山頭ダム→八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)→ 殉工碑(献花式) →八田與一記念館 ⑩交歓会(何怡涵・ 陳清華ご夫妻) ⑪鹽水國民小學(歡 迎式典)→八角樓 ⑫交歓会(黄崑虎先生) ⑬交歓会(台灣台日 海交會) (台中泊)	⑭宝覚寺→日本人墓 地(慰霊式)→靈安 故郷碑(慰霊祭) ⑮孔子廟 ⑯交歓会(台湾中日 海交協会) ⑰濟化宮(慰霊式) (台北泊)	⑱高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会 (台日文化經濟 協會)
第12次訪問 46名 H22.11.22～26月～金 ガイド 簡 添宗 徐 永隆 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (19ヶ所)	①芝山公園 (慰霊式) ②講話 (蔡焜燦先生) (台北泊)	③烏山頭ダム→八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)→ 殉工碑(献花式)→ 八田與一記念館 ④交歓会(何怡涵・ 陳清華ご夫妻) ⑤海尾朝皇宮 (献花式)→ 飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥保安堂(慰霊式) ⑦交歓会(黄明山・ 葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑧鹽水國民小學 (歓迎式典) ⑨交歓会 (ラハウル会) ⑩宝覚寺(A班)、 台中公園(B班) ⑪交歓会(台灣台日 海交會) ⑫夜市 (台中泊)	⑬宝覚寺→日本人墓 地(慰霊式)→靈安 故郷碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日 海交協会) ⑮勸化堂(献花式) ⑯濟化宮(献花式) (台北泊)	⑰高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ⑱中華民國外交部 ⑲交歓会 (台日文化經濟 協會)
第13次訪問45名 H23.11.22～26火～土 ガイド 簡 添宗 呂 芳儀 神僧職 塩先晋照 旅行社 JTBトラベル九州 (17ヶ所)	①中華民國外交部 ②高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ③交歓会(台日文 化經濟協會) ④林森公園 (台北泊)	⑤飛虎將軍廟 (慰霊式) ⑥奇美博物館→交 歓会(許文龍先生) ⑦東龍宮(慰霊式) ⑧交歓会(黄明山・ 葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑨保安堂(慰霊式) ⑩烏山頭ダム→八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)→ 殉工碑(献花式) →八田與一記念 館→八田與一記 念公園 ⑪台中市政府 ⑫交歓会(台灣台日 海交會) (台中泊)	⑬宝覚寺→日本人墓地 (慰霊式)→靈安故郷 碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日海 交協会) ⑮濟化宮(献花式) (台北泊)	⑯明石元二郎総督墓 所(慰霊式) ⑰芝山公園(慰霊式)
第14次訪問38名 H24.11.22～26木～月 ガイド 簡 添宗 曾 英明 神僧職 なし 旅行社 JTB九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②交歓会(黄明山・ 葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	③東龍宮(慰霊式) ④新化國民小學御 眞影奉安殿 ⑤台南武徳殿 ⑥飛虎將軍廟 (慰霊式) ⑦台南市政府 (台南泊)	⑧鹽水國民小學 (歓迎式) →八角樓 ⑨貞愛新王殿下登 陸記念碑 (献花式) ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台灣台日 海交會) (台中泊)	⑫宝覚寺→日本人墓地 (慰霊式)→靈安故郷 碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会 (台湾中日海交協会) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(台日文化 經濟協會) (台北泊)	⑰芝山公園 (慰霊式) ⑱中華民國外交部 ⑲林森公園 ⑳交歓会 (蔡焜燦先生・ 黄文雄先生)

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第15次訪問 32名 H25.11.22～26 金～火 ガイド 簡 添宗 謝 添基 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (16ヶ所)	①忠烈祠(献花式) ②中華民國外交部 ③林森公園 ④交歓会(黄文雄先生)	⑤二峰圳(地下ダム) →喜楽發森林公園 ⑥東龍宮(慰霊式) ⑦保安堂(慰霊式) ⑧交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)	⑨海尾朝皇宮(献花式) →飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩烏山頭→八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式) →殉工碑(献花式) →八田與一記念館→八田與一記念公園 ⑪歓迎会(台湾台日海交會)	⑫宝覺寺→日本人墓地(慰霊式) →靈安故郷碑(慰霊祭) →台中公園 ⑬交歓会(台湾中日海交協會) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(台日文化經濟協會)	⑯高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) →酋長文化村
第16次訪問 48名 H26.11.22～26 土～水 ガイド 簡 添宗 吳 志仁 范 智凱 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (18ヶ所)	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) →酋長文化村 ②林森公園(献花式) ③交歓会(黄文雄先生)	④烏山頭ダム→八田與一記念館 →殉工碑(献花式) →八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式) →八田與一記念公園 ⑤東龍宮(慰霊式) ⑥交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)	⑦保安堂(慰霊式) ⑧高雄市政府 ⑨飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台湾台日海交會)	⑫宝覺寺→日本人墓地(慰霊式) →靈安故郷碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会(台湾中日海交協會) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(台日文化經濟協會)	⑰芝山公園(慰霊式) ⑱中華民國外交部
第17次訪問 32名 H27.11.22～26 日～木 ガイド 簡 添宗 鄭 清川 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (17ヶ所)	①明石元二郎台湾総督墓所(慰霊式) ②交歓会(黄文雄先生)	③台湾無名戦士記念碑(慰霊式) ④東龍宮(慰霊式) ⑤交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)	⑥保安堂(慰霊式) ⑦高雄市政府 ⑧飛虎將軍廟(慰霊式) →海尾朝皇宮(参拜) ⑨奇美博物館 ⑩交歓会(台湾台日海交會)	⑪宝覺寺→日本人墓地(慰霊式) →靈安故郷碑(慰霊祭) ⑫台中公園 ⑬交歓会(台湾中日海交協會) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(台日文化經濟協會)	⑯中華民國總統府 ⑰中華民國外交部

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

●ご協力ありがとうございます。

日升大飯店

総支配人 郭 秋燕

☎(06) 228-5656

〒700-0005 臺南市西區尊王路126號

鎮安堂 飛虎將軍廟

顧問 郭 秋燕

☎(06) 247-8884

〒709-0052 臺南市安南區大安街730-1號

第17次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 帰朝報告

期間 平成二十七年十一月二十二日（日）～二十六日（木）

参加者 三十二名

■ 十一月二十二日（日）

総勢三十二名の今次訪問団員のうち、二十二日福岡出発の三十名は、八時十五分に福岡空港国際線出発ロビーに集合した後、特別待合室で出発式を行いました。訪問の歴史的意義、役員の紹介、注意事項の説明、記念写真の撮影を手短かに済ませ、出国手続きを終えた一行は、四泊五日の旅の期待を胸に、定刻十時五十五分にチャイナエアライン一便で空路台北へ向けて旅立ちました。

機内食をいただいて寛いでいるうちに、現地時間十二時三十五分に無事桃園国際空港に到着しました。入国手続きを済ませて空港待合室に出ると、今回で十回目となるガイドの簡添宗さんや黄楷棻台湾支部事務局長等の温かい出迎えを受けました。早速一行は専用バスに乗り込み、最初の訪問地である明石元二郎台湾総督の墓所を目指しました。新北市三芝区店子村にある福音山基督教墓苑の中腹に位置する元総督の墓所前に整列した一行は、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花の手順で肅々と慰霊式を齎行しました。献花の後、田中道夫副団長の慰霊の言葉、小菅玄三郎団長の補足説明で慰霊式を締めくくりました。

台湾の政権交代に期待

最初の慰霊式を終えた一行は、台北市内へと向かい、昨年と同じ「紫都」で黄文雄先生と六月の台湾特別講演会以来の再会を喜び合いました。会場には黄先生の知己である著名な文化人の方々が二十名余りお集まりでした。話題の中心はや

はり一月の台湾総統選で、皆さん異口同音に民進党の蔡英文主席の勝利によって政権交代し、台湾のアイデンティティがより重視されるだろうと語ってありました。遅れて民視テレビ股分会社の田再庭董事長も駆けつけられ、総統選の結果に心強いエールを送られました。宴が進むにつれ大いに盛り上がり、黄先生はもとより他の皆様方も別れを惜しんでおられましたが、翌日は朝が早いこともありお暇乞いをして宿泊先の慶泰大飯店に戻り、心地よい眠りに就きました。

■ 十一月二十三日（月）

台湾無名戦士記念碑を初訪問

翌朝ホテルで早目の朝食を摂り、七時五十分台北駅発の台湾新幹線で一気に南下し、一時間四十分で左營駅（高雄）に着きました。専用バスに乗り換えて、高雄市旗津区にある台湾無名戦士記念碑へと向かいました。これは、許昭榮氏が国共内戦で戦死した一万二千柱の英霊を慰霊するために建立した碑で、初めての訪問です。この日はちょうど月曜日で記念館は休館だったのですが、私達のために特別に開けて下さいました。許氏の碑前で慰霊式を行い、大山猛副団長の挨拶の後、許氏の娘婿の館長に案内してもらいました。館内ではDVDが放映されており、一行は熱心に見入っていました。一段落した所で館長にお礼を述べて次の訪問地、東龍宮を目指しました。

廟に到着すると、爆竹の音と共に堂守の石羅界様はじめ地元の皆様方が笑顔で迎えて下さいました。早速整列し、田中將軍の御霊鎮魂の

ために慰霊式を齎行しました。改築は昨年よりかなり進捗していましたが、まだ工事の途中で一日も早い完了を心待ちにしています。廟の皆さんが用意して下さいました新鮮なスイカやポンカンと一緒に美味しくいただいた後、記念写真を撮ってお別れしました。

今年も和やかに会食

その後一行は高雄市内へ戻り、黄明山台湾支部長ご夫妻主催の歓迎夕食会に臨みました。支部長のご家族や同僚の方々と一年振りの再会を喜び、お土産の交換に続いて、黄事務局長の通訳で支部長の歓迎の挨拶、団長の答礼の挨拶の後、開宴となりました。毎年恒例の歓迎会ということもあって顔馴染みの方も多く、すっかり打ち解けた雰囲気でも話も弾み楽しい一時を満喫しました。二時間余り歌も交えて交流を深めた後、名残りを惜しみつつ来年の再会を約してお開きとなり、宿泊先の華王大飯店へ帰りました。

■ 十一月二十四日（火）

松俵常任顧問が七福神の陶面額を奉納

三日目のこの日は、まず保安堂を訪れました。八時三十分という早い時間にもかかわらず、趙麗恵さんをはじめ地元の皆さんが大勢で出迎えて下さいました。早速、大日本帝國海軍の艦長の慰霊式を執り行い、松俵義博常任顧問が日本から持って来られた七福神の大きな陶面額を奉納されました。

昨年同様、高雄市旗津区の謝水

福区長もお見えになっており、前日私達が旗津の台湾無名戦士記念碑を訪問したことを聞かれて非常に残念がっておられました。地元の皆さんが用意された美味しいぜんざいやバナナ等をいただいた後、高雄市政府へ向かいました。

「福岡宣言」を高く評価

高雄市政府に着くと、総統選挙前で多忙な陳菊市長に代わって、楊明州秘書長が待っておられました。広い会議室で、まず映像による高雄市の紹介があり、続いて楊秘書長が歓迎の挨拶をされましたが、その中で昨年のガス爆発に対する義捐金のお礼と共に、「福岡宣言」を高く評価されたことに驚きました。訪問団のことをよく調べられておられることがうかがえます。小菅団長は答礼の挨拶の中で、台湾にゆかりの深い本間雅晴中將の縁戚にあたる本間潤子さんが参加されていることを紹介し、縁の深さを強調しました。和やかな雰囲気で一時間余りの表敬訪問を終えた一行は、次の訪問地の飛虎將軍廟へと向かいました。

廟に響く慰霊の喇叭

飛虎將軍廟でも多くの地元の皆さんが待ち受けておられました。爆竹の歓迎の中、廟に到着すると、早速道教の作法に従って儀式が執り行われました。昨年同様、この日と翌日の宝覺寺での慰霊祭のためにわざわざ東京から来られた甲飛喇叭隊第十一分隊の原知崇氏等三名の方が、杉浦茂峰兵曹長以下三柱のために喇叭を吹かれ慰霊の誠を尽くされました。

慰霊式を終えた後、今回は行程に入っていなかった本宮である海尾朝皇宮にも是非御参りして欲しいと所望され、参拝することになりました。

海尾朝皇宮は第十二次と第十五次訪問で御参りした所ですが、改めて地元の皆様の信心深さを感じました。

休館日に郭副館長の取り計らいで特別に入館

海尾朝皇宮を後にした一行は、次に新しい奇美博物館を訪れました。元の奇美博物館は何度か訪問し、許文龍氏にもお会いしたことがありましたが、新しい博物館は初めてでした。しかし、残念なことに訪問時期が展示品入れ替えの特別休館日と重なり、全館の見学はできませんでしたが、郭玲玲副館長の取り計らいで特別に入館させていただきました。そしてわざわざ私達のために、高価すぎて値がつけられないパイオリンの数々を見せて下さり説明していただきました。郭副館長は以前とお変わりなくお元気でしたが、心のこもったおもてなしに頭が下がる思いでした。まるで宮殿と見まがう様な建物の正面玄関で記念写真を撮って奇美博物館を後にしました。

会長交代で歓迎会の内容も変化

一行を乗せた専用バスは、一路台中市を目指して北上しました。台中では台湾台日海交會の皆様による歓迎夕食会が十八時三十分から予定されていましたが、海尾朝皇宮に寄るなど行程が少し遅れ、会場には三十分程遅れての到着となり、ここで二泊三日のB班の二名と合流しました。会場の外では会の幹部の方々が既に待っておられ、温かい拍手で迎えて下さいました。会場に入ると参加者の顔ぶれが昨年までと少し変わっていることに気づきました。今年には会長が簡朝陽氏から林余立氏に替わったこともあってか、会員の子供さんやお孫さんが多く

参加されていました。ここでも会員の高齢化が進み、会の先行きを懸念していただけに、若い世代への継承が図られつつあることに安堵しました。林余立会長の歓迎の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶の後、乾杯で開宴となりましたが、いままでになく、ミュージシャンの演奏や子供たちの演技が披露されるなど、内容も一変して華やかな宴でした。途中からはカラオケも加わり、時間を忘れて交流を深めてお開きとなり、明日の宝覺寺での再会を約して宿泊先の全国大飯店に戻りました。

十一月二十五日(水)

この日は慰霊訪問の最大行事「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列するため宝覺寺を訪れました。参列に先立ち、境内の一面にある日本人遺骨霊安所(日本人墓地)で慰霊式を斎行しました。墓前に整列した後、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花の後、横尾秋洋顧問が追悼の挨拶をされ、しめやかに式を終えました。その後団員全員でお線香を上げましたが、式を見守っておられた一般観光客の方々も多数お参り下さり、一万四千余柱のご冥福をお祈りしました。

慰霊祭参加者全員に『靈安故郷』を配布

日本人墓地での慰霊を終えて、靈安故郷碑前での慰霊祭の席に着くと、日台両国の国旗掲揚、国歌斉唱、軍艦旗掲揚で開式し、林余立台湾台日海交會會長の主宰者挨拶に続いて、今年も小菅団長が格調高く祭文を奏上しました。今年は、日清講和条約締結百二十年、靈安故郷碑建碑二十五年に当り、祭文、福岡宣言を盛り込んだ『靈安故郷』という冊子を参列者全員にお配りしましたので、帰られた後皆さん熟読された

のではないかと思います。

「海ゆかば」の合唱で慰霊祭を終えた後、台湾の皆さんと一緒に記念写真を撮り、大仏見学等境内を散策して、宝覺寺を後にしました。

ここで、一足早く帰国される中野一則、新開崇司両団員と別れ、途中台中公園に立ち寄った後、台湾中日海交協会主催の歓迎昼食会に臨みました。林政徳会長の歓迎の挨拶、横尾顧問の答礼の挨拶の後開宴となり、北京ダックをはじめ美味しいご馳走をいただきながら、林会長のアコーディオンに合わせて合唱したりと家族的で賑やかな昼食会を満喫しました。大いに盛り上がる中、名残りを惜しみつつ、記念撮影をして次の目的地、濟化宮へと向かいました。

本間中将ゆかりの 本間潤子さんが献花

二時間余りバスに揺られて、新竹縣にある濟化宮に着くと、謝鏡清董事長とお宮の皆さんが笑顔で出迎えて下さいました。早速本殿にお参りし、献花式を執り行いました。二礼二拍一礼の後、新潟県の佐渡からご参加の本間潤子さんが献花され、本間雅晴中将の想い出や、初めての海外旅行に台湾を選ばれた心境などを語られました。謝董事長に靖國神社から分祀された四万余柱の靈璽棟を案内して貰った後、社務所前で美味しいお餅とお茶をいただいて寛ぎました。夕暮れの迫る中、来年の訪問を約して山門を出ました。

お土産の歌集に第十三次訪問 の和歌が収録

バスで新竹駅へ向かい新幹線に乗り換え、三十分程で台北駅に到着後、台日文化經濟協會主催の歓迎夕食会に臨みました。会場内の

各テーブルで黄天麟會長をはじめ役員の方々が笑顔で出迎えて下さり、黄會長の歓迎の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶の後、会食が始まりました。次々に運ばれてくる美味しい料理に舌鼓を打ちながら楽しく歓談し、親交を深めました。お土産にいただいた歌集「香る園・第三集」に蔡永興氏の

台日親善 福岡に震災支援の
謝辞尽きず 台日親善訪問の宵
他二首の歌が取められており、第十三次訪問を懐かしく思い出しました。いろいろと話の尽きぬ中、来年の再会を期待してお暇乞いしました。

宿泊先の慶泰大飯店にチェックインした後、希望者で士林夜市に繰り出し、夜市散策を楽しみました。大勢の人で賑わう夜店を回り、今年も台湾のパワーをいただいてホテルに戻りました。

■ 十一月二十六日(木)

福岡辦事處の曾念祖前處長が わざわざ訪問

最終日のこの日、前福岡辦事處處長の曾念祖氏がわざわざホテルを訪ねて来られ、バスの中でご挨拶をされ、懐かしい限りでした。初日に明石元二郎総督のお墓参りをしましたので、林森公園(明石元二郎台湾総督旧墓跡)は割愛し、中華民國總統府を見学しました。沢山の団体が順番待ちをしている中、福岡の辦事處にあらかじめお願いしていたお陰で時間通りに入場することができました。各コーナーを説明を聞きながら廻って、台湾の歴史や文化等を学ぶことができ、とても有意義なひと時でした。

外交部でも「福岡宣言」を高く評価

總統府を見学した後、中華民國外交部を表敬訪問しました。接待し

て下さったのは、李明宗亞東太平洋司総領事回部辦事で、歓迎の挨拶で慰霊のみを目的とした公的支援なしの民間団体は唯一だと言及され、またここでも「福岡宣言」を高く評価されました。続いて小菅団長が福岡宣言の評価に謝意を表明した上で、日本軍として亡くなった英霊を日本人が参拝することを国家として認めて下さっていることに感謝の意を述べました。その後、質疑応答があり、李氏が丁寧に受け応えされ、終始和やかな雰囲気でもて訪問を終えました。

山本博久氏が学院にエール

外交部の正面玄関で李氏を交えて記念写真を撮った後、市内のレストランで飲茶の昼食をいただきました。乾杯の音頭を取られた山本博久氏が、慰霊訪問事業を末永く続けるためには、本業の九州不動産専門学院が益々大きくなる必要があると、声援を送って下さったのは、予期せぬ言葉で大変有難く思いました。また、現地の新亜旅行社の社長がわざわざ来られ、台湾情勢を含めて挨拶されました。

昼食を終えた一行は、土産物店に立ち寄ってショッピングを楽しんだ後、桃園國際空港へと向いました。空港に着くと搭乗手続きを済ませ、五日間お世話になったガイドの皆さんと黄事務局長に厚くお礼を述べ、来年の再会を約して別れました。空港を離陸したチャイナエアライン一〇便は十九時三十五分に無事福岡空港に着陸しました。入国手続きを済ませ、空港ロビーで簡単な解散式を行い、全員の無事の帰国と台湾の皆様方の心温まるおもてなしに感謝し、沢山の土産や思い出と共に、一月の帰朝報告会での再会を約して家路につきました。

(文責 原田和典)

第17次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 紀行文集(抄)

掲載は名誉顧問・常任顧問・副団長・班長・副班長・一般団員の順とした。

日台友好議員連盟 設立への契機

よこお あきひろ
特別顧問 横尾 秋洋氏

昨年に引き続き二回目の訪問となりました。特に今回は特別顧問のお役をいただいた上のごでした。思い返せば昨年四月、平井県議会議員と市議会議員六名で国立故宮博物院の美術品が、九州国立博物館に台湾国として初めて貸し出されることの御礼として故宮博物院と外交部を表敬訪問しました。

故宮博物院の憑明珠院長との面談後、外交部を訪問し亞東関係協会の楊勝任理事長代行による昼食会を開催していただきました。帰国後、台北駐福岡経済文化辦事處の戎義俊處長(総領事)に感謝の意を込めて表敬訪問をいたしました。戎處長との会談の中で改めて台湾と日本との様々な関係をご教授いただきました。特に台湾の主食米、[蓬萊米(ホウライマイ)]の母として敬愛されている末永仁翁の存在を教えてくださいました。その末永仁翁の胸像が筑紫野市内の福岡県農林業総合試験場に設置されていることを知り驚きでありました。早速、領事館の帰りに試験場を訪問し拝見しました。

また、領事館内の各種パンフレットの中に台湾特別講演会開催の案内が目にとまりました。六月八日の講演会に参加し、日華(台)親善友好慰霊訪問団とその団長である小菅亥三郎氏の存在を

知りました。何と十五年の長きにわたり継続して台湾に慰霊のために台湾人や日本人のご冥福を祈る訪問団であることでありました。それは、私の人生観外での存在でありました。台湾とのかかわり方を調査すればするほど台湾の方々への感謝と畏敬の念に駆られました。

私は、そこで「筑紫野市議会日台友好議員連盟」の設立に向け議会内に働きかけを行い、私が代表している「会派ちくし野」十名と公明党筑紫野市市議団三名の十三名で設立することになりました。平成二十六年十一月二十一日、領事館からは戎総領事以下四名、藤田筑紫野市長、原田衆議院議員(代理)、平井県議会議員をお迎えしての設立総会開催の運びとなったものでありました。

そして翌日の二十二日から四泊五日の慰霊訪問団に初めて参加させていただきました。日華(台)親善友好慰霊訪問団とその団長である小菅亥三郎氏の存在を知りえなかったら「筑紫野市議会日台友好議員連盟」の設立や日華(台)親善友好慰霊訪問団に参加もありえなかったであろうと思うものであります。

また、参加したことで訪問団の皆さんや台湾の方々との知遇を得たことは私の人生の中で大きな財産となりました。まことに感謝の念に堪えません。

さて、今年の選挙の結果新たに三名の新人議員が入会しましたので、来年度は議員団で台湾国に訪問団を編成し、訪問したいと計画しています。

台湾との絆より深く

まつだわら よしひろ
常任顧問 松俵 義博氏
まつだわら しげこ
原田班 松俵 茂子氏

第十七次日華(台)親善友好慰霊訪問に十一月二十二日～二十六日迄の四泊五日のスケジュールで、大東亜戦争で散華された原台湾人元日本兵軍人軍属三万三千余柱の英霊顕彰、領台時代の魂を継承する現地台湾人との家族交流・兄弟交流、中華民國總統府、外交部の表敬訪問等に参加しました。

行く先々での歓迎で親日台湾との深いつながりを感じると共に、過去に激しい激戦の末の血と汗を流された皆様をお祀りする場所への訪問は、慰霊訪問の旅だからこそ山深い場所にまで行けお参りが出来るのだと感謝しています。今回の訪問団は、カメラマンが若い女性の方であり、四名の地方議員の方々、沖縄からの二名のご参加、遠くは佐渡島より本間雅晴中将の縁戚の方がご一緒で、いままでにない雰囲気でした。

移動中のバスの中では、訪問先の写真付きの資料が配付され、小菅団長より説明があり、大変わかり易く、スタッフの気配り、心配りにお礼申し上げます。ありがとうございました。

高雄市の台湾無名戦士記念碑では、立派に整備された公園で説明を受け、その案内をして下さった皆様の態度に又感動で胸がいっぱいで涙が止まりませんでした。深々と頭を下げ、私たちを

●ご協力ありがとうございます。

台北駐福岡経済文化辦事處

處長 戎 義 俊

☎(092)734-2810

〒810-0024 福岡市中央区桜坂3-12-42

教育正常化教職員ネットワーク

福岡教育連盟

執行委員長 矢ヶ部 大輔

☎(092)631-2901

〒812-0045
福岡市博多区東公園7-7
福岡県庁地下1階

笑顔で迎えて下さり、戦争のはげしい傷跡を語り、帰国後の今でもその光景が浮かび、胸が痛みます。

第十一次より第十七次で七回目の参加でしたが、新しい出会いがあり、又再会がありました。台湾でお会いする皆様は、日本統治時代に日本教育を受けておられ、日本精神が強く、日本語も上手で情熱的でやさしく、家族のように迎えて下さり、私たちも自然と笑顔になります。本当に感謝、感謝です。だから、台湾が大好きです。

若い青年たちが、父や母や家族を思いつつ散華されました。その多くの尊い命の上に今の私たちの幸せがあることを思うと本当に有り難いことだと思います。ご英霊の皆様のお陰です。

小菅団長は出発式の時に「台湾で私たちが来るのを待っていてくれます」とよく言われますが、本当に台湾の皆様は私たちが来るのを一年首を長くして待っていてくださいます。そのためにも健康に注意していますとおっしゃいます。

今回は、第二人にも一緒に慰霊訪問に加わってもらいましたが、本当の台湾がわかり、感動し、是非また参加したいとのことでした。本当に有難うございました。

「霊安故郷」

たなか みちお
副団長 田中 道夫氏

台中市寶覺寺に台湾人元日本兵の「霊安故郷」の記念碑・慰霊碑があります。(もう一箇所、新北市烏來にあります)

先の大戦で、台湾人元日本兵は南洋諸島で多くの戦死者を出しました。ここ寶覺寺は台湾人元日本兵軍人軍属三万

三千余柱の御霊を祀る寺社です。

明治二十八年から大東亜戦争終結までの約五十年の間、台湾は日本の一部であったという歴史は皆さんご存知かと思えます。昭和十六年、大東亜戦争が始まると、我が国が危急存亡の時であると、日本人として日本教育を受けた愛国熱血あふれる台湾青年は、我れ先にと日本軍人・軍属に志願し、南洋各地に駆けつけました。その数は二十数万にものぼるとの事です。これらの熱血溢れる台湾青年は、忠勇無双の日本兵と生死を共に南洋各地の戦場で奮戦し、国の為に華々しく散華されました。元日本兵軍人・軍属の台湾人は三万三千余柱にもなっています。その中で二万七千余柱の英霊はありがたき靖國神社に奉祀なされましたが、終戦前に戦死なされた六千余柱の英霊は、靖國神社に奉祀する事に間に合わず、南洋各地に無宿の野鬼となり漂っています。そして、日本は大東亜戦争に負けました。時は昭和二十年八月十五日です。台湾は一夜にして中国国民党政府の管轄を長い時間うけることとなり、また戦後台湾に戻ってきても、台湾はすでに中華民国、つまり日本を敵として戦った国民党の国になっていました。そして日本軍人として、あるいは日本軍のもとで戦ってきた台湾人元日本兵軍人・軍属は、祖国台湾でももちろん英雄視されることはありませんでしたし、歓迎もされませんでした。負傷して生還した人たちは、戦死した人のご遺族も長い間、自分の事や親類の事、友人の事を語れず、誇りに思うことすら出来ずにひっそりと暮らしてきたわけです。

今、終戦七十年ですが現在の日本と台湾は、こうした台湾の若き青年達、家族も作ることも出来ず、日本人として戦い、未来の日本・台湾の為に、ひとつし

かない命を懸けたからこそこの『今』を決して忘れてはなりません。

私はこの慰霊の旅で、現在台湾社会で特に若い青年たちはこの事を知り、どのように理解されているのか知りたく思えます。また日本においてはさらに戦争を知る方々も高齢を迎え、日本の若い青年たちが知る機会がそうそう無いという現状にもまた憂いが募ります。散華された元日本兵軍人・軍属として戦ってきた台湾人の名誉と誇りを取り戻されることを望みます。(英霊よ、安らかに故郷へ)

日本と台湾との絆はこうした歴史の中で紡がれてきたと思います。我々訪問団の目的は「慰霊」です。そこで真の慰霊とは何かと気付くのに十四年かかりました。(第三次から参加) 先人達が築き上げてきた礎をしっかりと未来へと継承させていくことだと考えます。

来年一月十六日の総統選挙により、台湾は大きく変革を遂げる事と確信しています。慰霊と感謝の旅は終わりました。
合掌

教育勅語や古事記を 語らるる日本語世代

いわしげ まこと
第三班班長 岩重 誠氏

「台湾は世界で一番、親日的な国である」と、人からよく聞き、書籍でもそのような内容を何度も目にしてきた。私は、日本史の教師として、実際にそれを自分の目で見て、肌で、心で感じたいと思っていた。その絶好の機会となったのが、今回の慰霊訪問である。

学校の授業では、中華人民共和国については詳しく学習するが、台湾についてはそれほど強調されていない。大人で

●ご協力ありがとうございます。

ひとをつくり まちをつくり くをつくる

九州不動産専門学院グループ

代表 小菅 亥三郎

☎(092)714-4131

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

美祿市総合観光部

☎(0837)52-1532

〒059-2292

山口県美祿市大嶺町東分326-1

も、日本統治時代の状況や大陸と台湾の関係を正しく理解していない者は多い。まして、台湾において、かつて日本人として戦った人々がいいて、それを今、大切に祀ってくださる人々がいることをどれほどの日本人が知っているのだろうか。私自身も実際に現地を訪れるまでは、それを意識したことがなく、日本人として申し訳ない思いがこみ上げてくる。

今回の訪問では、多くの台湾人に出会った。中でも印象に残っているのが、かつて日本の統治時代を知る高齢の方々だ。今なお、流暢な日本語を話すことはもちろん、教育勅語や古事記を誦んじる人もいて、その姿に感動で胸がいっぱいになった。また、戦後生まれの台湾の人たちからも、日本に対する好意がひしひしと伝わってきた。戦後の国民党による統治でどれほど反日教育を行っても、かつて日本人としての魂を彼ら、彼女らから消し去ることはできなかった。戦後の教育で、大和魂、日本精神を見失ってしまった日本とは大きな違いである。今度は我々が台湾から日本人としての魂、精神を学び直すべきであろう。

また、現地では二組の日本からの修学旅行の生徒たちに出会った。最初の学校はバスですれ違っただけであったが、二組目の学校は、最終日の昼食会場で隣同士の部屋となった。東京からの高校生とのことであり、彼らは広い会場で賑やかに食事をしていたが、その様子は周囲の客への配慮を欠いており、教師の話も聞かず、悪ふざけが目立った。同じ日本人として恥ずかしい思いがした。現在の海外の修学旅行の多くは、観光地を訪れ、地元の高校生と交流し、美味しい料理を食べ、買い物をするといった内容である。しかし、それだけではもったいない。修学旅行で台湾に来ても、見る目、感じる心がないと得るもの

は少ないのだ。これを改める鍵こそ、今回の訪問団のような慰霊や日本統治時代を知る人々との交流である。このことが、生徒たちに日本人としての誇りと台湾への感謝の気持ちを持たせることに繋がり、自ずと立ち居振る舞いも変わって来るであろう。

そして、私自身も、教師としてやるべきことが明確となった。今回の経験、学んだことをしっかりと生徒に伝えていかなければならない。思えば、今までの授業は、何と血の通わない内容を語ってきたのだろう。これからは、授業において台湾を扱う時、その説明は間違いなく今までと違ったものとなる。余りにも熱が入りすぎて、授業が進まなくなるのではないかと少し心配になるくらいだ。

子供たちに日本人としての誇りと公のために尽くす志を持って生きてもらいたい。教師として、そう願っており、もちろん私自身もそうありたい。今回の慰霊訪問の旅は、この思いを改めて強くさせてくれた。台湾統治に情熱と真心を込めた戦前の日本人、我々が忘れた日本精神を守り抜いてくれている台湾人、そしてこの慰霊訪問を運営された方々に心より感謝したい。

世界一の親日国・ 台湾に感謝

ひらお ふみひろ
第四班副班長 平尾 文洋氏

昭和四十七年、中国との国交が成立した時、台湾とは国交断絶ということになり、結果的に大東亜戦争を共に戦ってくれた台湾を日本は裏切ることになってしまいました。台湾の人々にとって、日本がとったこの裏切り行為がどれほど悔しかったかは、私たち日本人の想像を超

えていると思います。しかし、それにもかかわらず、四年前の東日本大震災では二百五十億円もの義捐金を送って下さいました。私たち日本人は改めて台湾の人々にお詫びと感謝の気持ちを申し上げ、そして同時にどうやって台湾の人々の友情の気持ちにお応えすればいいのか、その事に深く思いを致すべきではないでしょうか。

私は三年前から小菅団長が主催されている台湾特別講演会に参加させていただいていますが、台湾への慰霊訪問の旅は今回が初めてでした。出発前、小菅団長から慰霊訪問の目的についてのお話がありましたが、観光が目的ではない台湾訪問がどれ程、意義が大きいかを深く考えさせられました。

今回、慰霊訪問の旅に参加して私が一番嬉しかったのは台湾の方々の熱い歓迎でした。日本の歌を印刷した冊子を配られ、一緒に歌って下さった事に心温まる歓迎の気持ちが感じられました。

また、四日目に行われた宝覺寺での慰霊祭では国歌「君が代」と台湾の国歌を歌い、式の最後に「海ゆかば」を歌った時、胸に熱いものがこみ上げてきて最後まで歌うことができませんでした。そして慰霊祭の最後の挨拶で「また来年も来て下さい。待ってます」と言われた時、本当にこの慰霊訪問の旅に参加してよかったと思いました。

感謝と感動の慰霊訪問

とみた しょういち
第三班副班長 富田 昇一氏

今回の慰霊訪問の旅では、初めての参加にもかかわらず小菅団長はじめ団員の皆様から本当に温かく迎えて戴き、また多くの示唆に富んだお話、良きアド

●ご協力ありがとうございます。

ふれあい 学びあい 助けあい
九州不動産専門学院グループ同窓会
九栄会

会長 角 洋一郎

☎(092)714-4341

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

快適な住空間の創造
ハウジング アーキテクチャー システム
(株) H A S

代表取締役 田中 道夫

☎(092)663-5510

〒813-0002
福岡市東区下原4-19-17
エトワール21-605

バイス、そして懇切な御説明をして下さいまして、心から感謝申し上げます。

【慰霊訪問参加の経緯】

(一)台湾に関しては以前から大変親日的な国であり、東日本大震災時に、どの国よりも多額の義捐金を出して頂いた国ということで、家内ともども友好的な国だと認識していました。

以前に台湾各地を訪れましたが、現地では友好的な雰囲気は少しは感じることは出来ましたが、何かある種の物足りなさを払拭できませんでした。

(二)本年六月二十三日の産経新聞の紙上で「台湾特別講演会」の事を知り、強く興味を引くものがあったので出席しました。この時に第十七次の慰霊訪問の旅の案内についてお聞きして、訪問の内容に関し心の琴線にふれるものがあったので参加を決めました。

【慰霊訪問の準備】

(一)五日間の日台の親善と友好の慰霊訪問の目的で渡台するわけですから台湾の歴史、日本との関係等について参考資料、図書から自分なりに少しでも学習して知識面の準備をしました。

(二)台湾の歴史の中で、日本の統治時代に児玉源太郎先生が第七代の総督に在任されています。総督時代には部下の後藤新平先生と共に鉄道、港湾のインフラ整備、医療、衛生の改善等、大事業を成し遂げ台湾近代化の基礎を築かれたことを知り、心から賛嘆し感激しました。私の住む周南市徳山の地に生誕された児玉先生の台湾における総督時代の輝かしい業績を今まで知らなかったことを愧じた次第です。児玉先生は正に台湾の近代化を推進した功績者の一人であり、我が郷土の誇りの思いを新たにしました。

(三)私事で恐縮ですが、台湾訪問の前に自宅からそれ程遠くない所に児玉先

生を祀っている児玉神社にお参りして“素晴らしい訪問になること”と“道中の安全”を祈念しました。この時、私の心の奥底に児玉先生が「台湾をしっかり観て、台湾の人の話をよく聴いて来い」という言葉が聞こえた様なちよつと不思議な感じがしました。この訪問では団員としてしっかりと慰霊と親善・友好を果たそうと肝に銘じた次第です。

(参考)児玉源太郎一長州藩の支藩である徳山藩の貧しい藩士の家に生まれながら、後年、明治陸軍の巨星としてその名を轟かせた英傑です。時に日露戦争の満州軍総参謀長として手腕を発揮、日本を勝利に導いた陸軍としての名戦略家です。

【魂に染みいる慰霊】

(一)異国の地における全ての訪問先で御供養・鎮魂を現地の縁のある人、団長はじめ団員の皆様と一緒に厳粛に出来ましたのは、何ものにも変えられない得難い体験でした。最初に「君が代」を奉唱することの素晴らしさは筆舌に尽くせなく、心の底から歓喜を覚えました。「君が代」に続き、丁寧な黙祷、献花そして御挨拶が終了しました後の清静しさが心の中に清冽な水が滲み出て満たされる様な気持ちとなって、この訪問の旅に参加出来た「有り難さ」と「感謝の念」が自ずと浮かびました。

(二)全ての慰霊訪問先で感銘を受けましたが、二ヶ所での慰霊について少し感じたことを述べてみたいと思います。はじめは、南天山済化宮での慰霊ですが、まさしく驚天動地の慰霊の場所であり、感に堪えない参拝でした。十一月二十五日の午後の訪問は台中市内で台湾中日海交協会様による歓迎昼食会の後、私たち一行はバスで高速道路と一般道路を乗りついで新竹県北埔と云う山あいにある済化宮へ向かいまし

た。一般道路からは細く曲がりくねった道を進み、途中、オレンジ色が鮮やかな多数のミカンのなっている木々を見ながら走りました。午後三時四十分頃、突然車外から歓迎の爆竹の破裂音が聞こえたので済化宮に到着したことに気がきました。

今、ここ台湾の靖國神社と称せられる英霊の聖地に立っていることの感動で胸が一杯になりました。荘厳な慰霊式典の後、二万七千五百九十三柱の英霊をお祀りしているお堂の中を見た時は驚嘆してしまいました。「霊璽」と記載された位牌に日本名が書かれているのを見た瞬間、台湾の方の英霊に対する強い敬意と尊崇の気持ちを肌で感じ取りました。暫くの間、祖国と日本の為に尽力された膨大な数のご位牌の前で低頭するのみでした。たまたま、沖繩から来られている我那覇さんと一緒に堂内を廻ることになり、二人ともお互いに「素晴らしい、素晴らしい」という感嘆の言葉だけを発するだけの見学になりました。

そして堂の玄関の所では地元の済化宮を管理されていると思われる方がお餅を“きなこ”の入った大皿に手で小さく丸めて入れられて、我々一行に接待して下さいました。何とこのお餅の美味しかったこと!その後、新幹線の新竹駅から既に暗くなった首都台北の街に戻りました。

(三)次に十一月二十三日の午後訪問した慰霊場所は高雄市から五十キロ程東南にある屏東枋寮という町にあります。ここのお宮は東龍宮と呼ばれ、田中將軍廟とも称せられています。そして主神の田中綱常將軍が真中に鎮座され、両隣に二人の女性の將軍と二人の男性の將軍が並んで坐っておられます。五人の神様は全て日本人です。宮

●ご協力ありがとうございます。

(株) 関 家 具

代表取締役社長 関 文 彦

☎(0944)88-3515

〒831-0033 福岡県大川市幡保98-7

売買、賃料、相続、訴訟、担保、資産の評価



社団法人 日本不動産鑑定協会正会員

(株)国際不動産鑑定所

代表取締役 山口 勝彦
不動産鑑定士

☎(092)483-3350

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東1-12-5
博多大島ビル4階

主は石羅界と云う台湾の方で、この場所に御自分で寄付と私財を捻出されて廟を長期に亙り建立されて来た様です。未だお宮の前方部分の階段や床は剥き出しのコンクリート張りのままで、完成には至ってませんが、今後とも工事を継続されるとのことでした。

石さんは厳しい状況の中で五人の散華された日本人をお祀りするお宮を造って来られ、管理されていることは、お宮の五神への深い愛情と並々ならぬ敬神の熱意をお持ちであることを強く感じました。また車内で戴いた資料に書かれているお宮の創建の経緯と石さんの相貌、そして御挨拶の言葉から察しますと、石さんは大変靈感が利いて魂の高い篤信家ではないかと想像するに難くはありませんでした。

この台湾南方の地にこの様な実に素晴らしい方がいらっしゃったからこそ、この地に立派な神社が出来、祖国に尽くされた私たち大先輩の英霊を神様として慰霊されていることが連綿と続いてことに素直に感謝の気持ちが沸き感動しました。石さんたちがお祀りされていることは偶然なことではなく、何か人智では計り知れない、摩訶不思議な力が働き、石さんに天降ってきて、このお宮が出来、且つ続いている事実と思いが到りました。そして、常日頃より石さん及び関係する皆様がこのお宮を大切に管理、お守りして下さっていることに日本人としてはまことに有り難いことであり、万分の一のお返しでも出来ないものかと五神に合掌している時に、ふっと私の心の中を掠めました。最後に美味しい果物とお土産を頂き、地元の皆様笑顔と爆竹の音に見送られて、この聖地を後にしました。

(四)慰霊訪問を続けている途中から「慰霊」の本質は何であろうかと云う思

いが湧いて来ました。そこで私なりに「慰霊」について考えたことを少し述べさせて戴きます。辞書によると「慰霊」とは“死んだ人の靈魂を慰めること”となっていますが、これではよく分かりません。そこで、霊は魂のことで、生きている人、死んだ人にそれぞれ霊があると考えます。亡くなった人は物質である肉体は無くなりますが、霊は存在し続けます。慰霊とは肉体のない物故者(死者)の靈魂に対して縁のある人々がお経を挙げたり(法施)、物を施したりする(物施)ことの一連の供養であると云えます。つまり私は供養することで「物故者との心の対話(交流)を通して、感謝と畏敬の気持ちを捧げることだ」と理解しました。よって各々の訪問先での慰霊式に出席させて戴いた時は、団員の一人として心の真底から「君が代」奉唱、黙祷、献花、焼香の時には、物故者との心の対話を図る様に努めました。団長はじめ私たち全員の団体参拝による慰霊の儀式によって飲ばれることに相成り、その喜びは再び私たちに反響して、実に爽やかで、心が澄み切った様な気持ちになるものと考えます。今回の訪問は通常の旅に比べ、到底経験出来ない精神面の素晴らしさが、何十倍、何百倍に増える旅ではないでしょうか。

【台湾の人々との交流】

(一)台湾の人々との交流は桃園国際空港に到着後、多くの場面で始まり、色々な意味で心をつ貴重な体験の連続でした。特に、慰霊訪問の旅途中で合計四回の昼食や夕食の歓迎会に招待して頂き、長年の旧友の様に友好的で心温まる懇親が出来たことは生涯忘れられないものになりました。

(二)台湾訪問の前に台湾の人々の日本及び日本人への考え方や捉え方が大変友好且つ親日的であるという根元

について、書籍や講演等を通して、少し思いを巡らしていました。台湾の方が友好で親日的である大きな理由は、先ず台湾統治時代に多くの日本人の為政者や多様な技術者そして教育者等が台湾近代化の為、厳しい状況下で誠心誠意で職務を遂行されている状況を、台湾の多くの方が目の当たりにされて、徐々にではあるが、日本人本来の美点である「日本精神」を学んで培われたこと。そしてその精神が連綿と継続されて行く過程で、日本と日本人の信頼関係が揺るぎないものとなり、お互いに信頼し合う愛日的な風土が醸成されてきたことではないかと考えました。

(三)実際に体験した一例を申しますと、十一月二十四日の台湾台日海交会様による夕食会において、私の隣の台湾の方と食事をしながらお話を伺った時、「私は戦前(大東亜戦争前)に日本の横須賀に行きセイコーの時計会社で働きましたが、辛いこともあったが勉強になったことや楽しいことも沢山ありましたよ」と昔のことを懐かしみながら楽しそうに仰いました。そして素直に日本の方には大変親しみを強く持っているという所作をされてから、握手を交わし肩を抱き合った瞬間に、熱いものが自然とこみ上げてくるのを禁じ得ませんでした。

(四)台湾の人々の日本人への思いと、私が日本にいて知り得た知識とが今回の訪問先の現地に於いて、全く同じものであることが分かり、心の中では大きな喜びとなって広がって行きました。全ての交流会で同じような心持になれる真に心が通い合う懇親の宴でした。

【特記的な事項】

慰霊訪問中に印象に残った事柄について述べたいと思います。

(一)車中での小菅団長の慰霊訪問の

●ご協力ありがとうございます。

旅行代理店 (社)日本旅行業協会会員

(株)近畿日本ツーリスト九州 福岡支店

☎(092)272-4891

〒812-0024 福岡市博多区綱場町2-21 福岡MDビル8階

総合印刷

大道印刷(株)

☎(092)582-0927

〒816-0873
春日市日の出町6-23

経緯を伺いまして、今回は十七回目と云う長きに亙り、輝かしい内容のある慰霊訪問が続いている背景には、初期の段階で幾多の難しい課題を克服なされてこの様な形の訪問団を創られたと推察されます。今回の意義ある訪問団に参加出来たことは、団長はじめ関与された皆様の御苦勞の賜物と思ひ心から感謝いたします。

(二)団長が車中で今回の慰霊訪問について次の三項目を挙げられ、非常に良いものになると仰いました。すなわち、①本年は台湾が日本になってから百二十年目に当たり、日清講和条約の条文中に「清国は台湾を永遠に割与する」ことが明記されていると言われました。〈この言葉は非常に強い“日台の矢”が私の胸に突き刺さったような衝撃を受け考えさせられました〉②来年一月に台湾の総統選挙があり、蔡英文氏がほぼ当選出来ると見られ、国民党政権の最後の年になるであろう。この最後の年に台湾に訪問出来ることは意味があるとも言われました。〈かねてから、台湾の現政権の最後と言える悪あがきを苦々しく思っていたので政権が転換される期待は非常に大です〉③この訪問では、佐渡の本間さんと一緒に参加出来たことです。本間中将様の御親戚の方です。本間中将は大東亜戦争中、フィリピン方面で御活躍された英傑とも言われました。〈この訪問中、遠方から来られた本間さんのご挨拶をお聞きしたり、直接お話をすることができましたことは、望外の喜びでした。感謝いたします。〉

(注)〈 〉内は私が感じた点です。

(三)訪問途中のバスの車中で、松俵常任顧問が、産経新聞は大変良い新聞ですから購読する様に何回も薦められていました。本当に素晴らしい新聞です。

私も産経新聞を読むことに大賛成です。私事になりますが、結婚してから今迄、産経新聞を四十一年間購読しています。この間、産経が山口県で販売を中止した期間が確か十年程ありましたが、この為、料金が二、三日遅れの産経を大阪の販売所から毎日郵送してもらい読んでいたことを懐かしく思い出しました。今は山口でも購入出来ます。なお、昨年私の友人に対して朝日から産経に変更する様に半年くらいかけて根気よく説得した所、現在、産経を読んでもらっています。

(四)慰霊という観点から、私の住む周南市に関係する人間魚雷「回天」について少し記したいと存じ上げます。大東亜戦争の末期、“天を回らし、戦局を逆転させる”という願いを込めて、「回天」という人間魚雷が誕生しました。これは、魚雷の頭部に爆薬を搭載し、隊員自らが操縦して敵艦に体当たりするという特攻兵器です。隊員の訓練基地が置かれたのが周南市徳山から海上約十キロメートル南にある大津島という島です。この島には、全国から二十歳前後の精鋭たちが集まり、毎日厳しい訓練を繰り返していました。そして窮地に立つ祖国を守るため、多くの若者がここから出撃して行きました。回天による戦没者は搭乗員、整備員他の百四十五名の英霊です。また平均年齢は二十一・一歳の若さでした。ちなみに回天の設備仕様は、推進馬力五百五十馬力、最高速度三十ノット、全長約十五メートル、全重量八・三トン、搭載爆薬重量一・六トンです。台湾訪問から帰国して旅の感想文を書く段に、祖国を愛する若者の戦争時の足跡が私の街にあることを思い出して、どうしても一言書かなくてはならないような気持ちに駆られて記載しました。尚、毎年十月にこの大津島で慰

霊式が開催されており、私事になりますが、この式に出席させてもらい先人達の英霊にお参りをしています。さて、この島には回天記念館、訓練用発射基地、回天の原寸大の模型、そして英霊の石碑等があり、大変風光明媚な所です。山口方面に来られる機会がありましたら、是非ご連絡下さい。回天ゆかりの大津島、児玉神社他をご案内いたします。(おわりに) 最後になりますが、今回このような素晴らしい日華(台)親善友好慰霊訪問団に参加させて戴く機会を持てましたので、これを契機にして今後の私自身の取り組み方を若干考えてみました。一つは我が街は幸いなことに台湾と関係の深い児玉源太郎先生の出身地です。そこで、市のボランティアガイドを通して児玉先生の日露戦争での活躍とともに、台湾の近代化の礎を確立された業績を導入部とし、日台の真の素晴らしい絆、台湾人の“日本精神”の継承等を市民(特に若い人)及び一般の人々に伝えて行くことを検討し、実践につなげたいと考えています。二つ目は個人的に友人等に対し今回の訪問で知り得た事(特に台湾人の親日的である本質をベースとしたもの)を啓蒙する努力をしたいと思っています。慰霊訪問の五日間に亙り、親愛なる台湾の人々そして小菅団長様はじめ団員の皆様とは本当に親密にならせて戴き、実に有意義な旅が出来ました。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

自らの目で見、耳で聞き 体験できた慰霊訪問

なかやま たけお
大山班 中山 雄夫氏

平成十一年三月の初めての訪問以

●ご協力ありがとうございます。

(有)濱崎理想瓦製造所

代表取締役 山下 康仁

☎(092)201-4010

〒891-0101 鹿児島市五ヶ別府町3786-12

小島テナント事務所

小島 義則

☎(092)451-2995

〒812-0042
福岡市博多区豊2-4-65

来、小菅亥三郎団長の父上、奥様に対する愛和の精神と強い信念と責任感から、十七年の長きに亙り継続した慰霊訪問が実施されております。

国づくり、まちづくりは、ひとつの信念のもと、「継続は力」と自ら考え、より高みを目指してご努力されている小菅団長に感銘し訪問団の一員として筑紫野市議会つきの横尾代表とともに、参加を決意いたしました。

戦後七十年の記念すべき今年、単なる知日家・親日家ではなく、同じ歴史を共有した台湾国民同志の多数の方々にお会いすることが出来ました。

自らの目で見、耳で聞き体験出来た今回の慰霊訪問が私に様々な考える契機を与えてくれました。感謝申し上げますとともに、同じ思いを持つ同志の多数の皆様方と語り合えたことを非常に嬉しく思っております。

経済第二位国中国が、「一带一路」構想のもと、積極的な海洋進出を図り海洋大国を目指しています。九段線を拡張し、自国民に中国の強さを誇らしく宣言しようとしています。「南シナ海問題」解決の為には、「中国の言葉を信用出来ない」と云う風潮が全世界に広がり、実態と符合しない中身のある会話を重ねる必要があると思われま。

かかるときに、沖縄から、新垣和也・我那覇真子両名が、遠くは新潟佐渡島より、本間潤子氏や鳥取境港から阿部政美氏、また若き教員・岩重誠氏等々の愛国心を持った同志の方々熱い思いに、共に戦って行こうと決意を新たにいたしました。

過去の歴史を色々勉強することが、台湾をより一層身近な国と理解できる始まりだと痛感させられました。

慰霊訪問の旅の中で、毎日のスケジュールとともに、資料をご用意頂き、

解りやすい説明を頂き本当に有り難く深く感謝申し上げます。自分の不勉強を、今更ながら反省致しました。

今後、日台友好筑紫野市議会議員連盟の二十二名の同志とともに、来年再び慰霊訪問が出来るよう横尾代表とともに頑張つて参りたく思います。

また、筑紫野市と台湾との友好の橋渡し役として、頑張りたいと思います。

家族が帰って 来たように歓迎

しんかい たかし
大山班 新開 崇司氏

昨年に続いて、第十七次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅に参加させて頂きました。今回は、一泊二日の行程です。

さて、私が台湾に到着した日の夜は、昨年と同じ昭和の時代を彷彿させるレストランで、台湾台日海交会様による心温まる歓迎夕食会が行われました。昨年も感激いたしました。台湾の皆様が初対面にも関わらず家族が帰って来たかのように歓迎して下さいるので、本当に楽しい夕食会でした。

翌十一月二十五日は宝覚寺にて、日本人墓地慰霊式、原台湾人元日本兵軍人軍属三万三千余柱の慰霊祭に参列をさせて頂きました。台湾の地で心静かに手を合わせると、あらためて「今日の日本が平和であることも、今日のアジアが平和であることも、そして私達が平和で幸せな日々を暮らすことが出来ることも、全て大東亜戦争で命を賭されたご英霊のお陰である」を感じました。

私は、宝覚寺の慰霊祭を終えると帰路につきましたので、台湾での滞在は

実質一日でありました。しかしながら、台湾の方々との家族交流、そして慰霊祭に参列出来たことを本当に嬉しく思っています。

全行程五日間のうち、二日間の参加であるにも関わらず、温かく団員に加えて頂きましたことを、小菅団長ご夫妻をはじめとする団員の皆様方に、心より感謝申し上げます。

それぞれの立場で 日台共栄のために活動を

たけした たかし
新垣班 竹下 尚志氏

一、初めての参加

以前から海外旅行をしてみたいと希望していました。海外に行くならまず最初に台湾と決めていました。今まで時間的日程が取れず今回業務を調整して参加させて頂きました。四泊五日の日程で、明石元二郎総督墓所・台湾無名戦士記念碑・高雄市政府・東龍宮・保安堂・飛虎將軍廟・宝覚寺・濟化宮・奇美博物館・中華民国総統府・中華民国外交部表敬等訪問しましたが、訪問前にはバスの中で小菅団長より訪問先の歴史や文化等の説明があり、内容を理解(習得)しながら見学し、説明を受け、効果的習得が出来ました。歴史の知識は多少ありましたが、更にきめ細かく年号毎に説明を受け、現地の視認(確認)等ができた事は私の財産にもなりました。反面、余りにも歴史を知らない自分が情けなくも思いました。

二、日本文化の発見(体験談と思いを述べてみたい)

保安堂、東龍宮、飛虎將軍廟などの訪問地では地元の方々から果物、ぜんざい、お菓子、お餅を振舞われ、また全

●ご協力ありがとうございます。

山口県日台交流協会

会長 重富 剛克

☎(0820)58-1111

〒742-1111 山口県熊毛郡平生町佐賀鳩ヶ峯2-77光輝病院内

(有)悠悠

代表取締役 徳山 世雄

☎(092)623-2667

〒812-0851

福岡市博多区青木1-11-27

員にお土産を頂くなど、温かいおもてなしを受け、初めての知り合いにもかかわらず会話の喜びと来年の再会を誓い合いました。旅程の中に八回ある昼、夕食のうち四回は昼食会、夕食会として台湾の方々と酒食を共に懇親を深める機会に恵まれた。私は積極的に日本語や事前に覚えた片言の中国語、台湾語で多くの方に話しかけをしてきました。さて、日本文化とは生活様式、習慣、伝統などがありますが、今失われている良き日本文化とは、日本人の誠実さ、自然との共生、勤勉さ、思いやりなどの日本人の特性を挙げたい。

日本統治時代に台湾で生まれ、日本の教育を受けた日本語世代の台湾の方々の年齢が九十歳代で殆ど時間がなく、私たちは日本語世代の方々の日本語から正しい美しい日本語を再発見し、現代の人に伝えなければならないと強く感じました。

今回も色々な立場の方が参加し、それぞれの立場で日台共栄のために活動されると思っております。特に今回は議員四名と元議員一名が参加されていましてので議会活動のほかに地域や他議員に訪問の内容等を説明・報告し、まずは来年以降に参加して頂くように、また、日台友好議員連盟を結成、次に台湾との友好都市の締結ができる様努力したいと思っております。

最後に小菅団長はじめ事務局の皆さん、ならびに団員の皆様のお陰でこの意義ある慰霊訪問団に参加できたことに改めて感謝申し上げます。有難うございました。

台湾慰霊訪問で思ったこと

なかの かずのり
大山班 中野 一則氏

今回の日華(台)親善友好慰霊訪問の旅で、私が台湾の皆様への親日的大歓迎を受けて思ったことは、先の大東亜戦争のことでした。

日本の台湾統治五十年間は極めて善政を施したこと、大東亜戦争はあくまでも日本の自衛戦であったことを改めて確信することができました。

侵略国家日本は、連合国側の現代にも至る執拗なプロパガンダがつくった虚構です。我々日本人は、自虐的な東京裁判史観から早々に脱却して、日本人としての誇りを取り戻すべきです。そして、台湾政府との国交が回復することを願ってやみません。

このようなことを確認できた今回の台湾訪問は、私にとって大変有意義な旅でした。企画された小菅団長とスタッフの皆様へ衷心から御礼と感謝を申し上げます。

郷土佐渡の後輩としての慰霊の旅

ほんま じゅんこ
新垣班 本間 潤子氏

私は夫の祖母がまだ健在だった頃、「弟の奥さんは台湾総督もした中川健蔵さんの奥さんの姉だよ」と聞きました。また隣家の「熊野神社」の奥さんから「義父さんは戦前台湾で神社を建てていて本間雅晴中将も参拝に来られ“戦勝祈願”をした」と聞きました。それで一度台湾へ行ってみたいが、ただの観光旅行ではつまらないと思っていたところ

月刊誌『正論』で「日華(台)親善友好慰霊訪問団募集」の広告を見て応募しました。台湾は親日的だと聞いていたのですが、想像以上で行く先々での台湾の方々の熱いおもてなしに感動致しました。昭和二年に完成した台湾総督府が今日もつかわれていて歴代の台湾総督の写真が飾られている中に中川健蔵さんの写真を見た時は嬉しくて感激しました。日本の五十年に及ぶ領有支配はすべて肯定されているわけではないでしょうが、「教育、産業振興、鉄道整備、衛生整備の面等で台湾の人達を指導した事が今日の台湾の繁栄の基礎になっている」と客観的に評価して下さる事に感謝致しました。また、本間雅晴中将作詞の「台湾軍の歌」を台湾の人達も多勢で歌って下さった事にも感激しました。佐渡の人で歌える人はひとりもいないでしょう。

本間將軍は台湾の高砂族等の若い人達を編成し、台湾軍の彼らはフィリピンやニューギニア等で勇敢に戦い、三万人以上の戦死者を出したという話を聞いて心が痛みました。本間將軍は「かくありて 許さるべきや 密林のかなたに消えし 戦友(とも)を思えば」という歌を詠まれたそうですが、郷土佐渡の後輩である私達も「せめて慰霊だけでもしたい」という思いを強くしました。

佐渡の家へ帰った翌日、台湾土産をもって隣家の「熊野神社」の奥さんを訪ねて話を聞いて貰いました。宮司をしているご主人は台湾育ちで、お母さんは台湾の小学校の先生をしていたそうです。来年は一緒に慰霊の旅に行きたいと言われていました。佐渡からは、学校の先生になったり、製糖会社に勤めていたりして多勢働きに行っていたそうです。そういう人達にも私の「慰霊の旅」の体験を話してみようと思います。

●ご協力ありがとうございます。

松俵建設(株)

取締役会長 松俵 義博

☎(0948)42-1033

〒820-0205 福岡県嘉麻市岩崎1554-10

台湾台日海交會

會長 林余立

☎(04)2527-3140

〒420-0061

台中市豐原區西勢路325號

高雄を震源とする地震被害復興支援義捐金 ご協力ありがとうございました



去る平成二十八年二月六日未明、台湾で南部最大の都市・高雄市を震源とするマグニチュード6強の地震が発生しました。震源に近い台南市では複数のビルが倒壊し、多数の死者や行方不明者が出るなど甚大な被害が起きました。

台南市は慰霊訪問団にとっては大変重要な地です。①大日本帝國

海軍飛行兵の杉浦茂峰兵曹長を祀る飛虎將軍廟の地であり、②「嘉南大圳の父」と慕われる八田與一の烏山頭ダムや墓所が大切にされ、今に至るも日台両国の人々が心を潤わせる地であり、③台湾に遺る日本精神を大事にされる許文龍先生との出会いの地でもあります。いわば私たちにとって台南市は領

台時代の面影を最も遺して下さっている大切な故郷です。その郷里ともいえる被災地の惨状に胸を痛め、復興・再建を切に願い、義捐金の呼びかけをしましたところ、多くの皆様からご支援（総額363,000円/88名）を戴きました。ご協力ありがとうございました。（1頁参照）

- | | | | | | |
|-------|------|-------|------|------|--------|
| 小菅亥三郎 | 藤田達男 | 角 洋一郎 | 富原 浩 | 松俵義博 | 矢ヶ部大輔 |
| 麻生法晴 | 大曲雅美 | 飯山純子 | 片野明彦 | 池田裕二 | 小田切志信 |
| 石川秀久 | 甲斐久幸 | 板波政子 | 梶原 昂 | 佐藤あや | 板波有紀子 |
| 小菅順子 | 茶園澄子 | 椿 博之 | 原口豊子 | 徳田慎也 | 井上久美子 |
| 原田和典 | 加茂温代 | 上野和彦 | 茅野 慧 | 江崎君公 | 大森キヌ工 |
| 茅野 櫻 | 衛藤琴美 | 茅野輝章 | 大橋拾子 | 茅野紀子 | 佐護美和子 |
| 川下信弘 | 堺 達也 | 楠根慶子 | 坂瀬秀之 | 窪山 功 | 古賀万美子 |
| 熊本光恵 | 古賀雅子 | 佐藤敏治 | 古賀元啓 | 武内 齋 | 下石原正子 |
| 古賀靖啓 | 田中恭子 | 児嶋知子 | 田中秀幸 | 田中道夫 | 小菅健太郎 |
| 富田昇一 | 原田種雄 | 中山 茂 | 原田泰宏 | 永井節子 | 橋田理恵子 |
| 久野貴子 | 成清禎亮 | 久野智教 | 西田一也 | 平田英範 | 安河内由美子 |
| 野口節子 | 福田章枝 | 野間 修 | 福本章二 | 古河和子 | 原 裕一郎 |
| 丸岩憲正 | 村上信之 | 山本博久 | 森 眞一 | 森川 洋 | 湯原とし子 |
| 吉武 勲 | 森口重幸 | 吉田初美 | 諸熊明彦 | R・光代 | 柳瀬共生 |
| 山口勝彦 | 山下政治 | 山室俊武 | 山本輝美 | | |
- （敬称略 順不同）

●ご協力ありがとうございました。

(株) 中部鋼材

取締役会長 **富原 浩**

☎(098)938-1318

〒904-0012 沖縄県沖縄市室川2-6-7

台湾中日海交協会

理事長 **林 政徳**

☎(04)2316-5163

〒407-0048
台中市西屯區重慶路120巷15號

日清講和条約締結 120年 / 終戦 70年

福岡宣言

日華(台)親善友好慰霊訪問団では平成27年6月21日に『日清講話条約締結120年／終戦70年』を記念して「第13回台湾特別講演会」(西鉄グランドホテル)を開催しました。その後に続く交流会は、東京の黄文雄先生や、地元の柳原憲一先生、施光恒先生、そして、中華民国・台湾からこの日のために来日した台湾支部の黄楷棻事務局長を交え盛会のうちに終了しました。講演会では、それを締めくくる形で、この「福岡宣言」が満場一致、万雷の拍手で採択されました。皆様にはこの事実を是非知っていただきたくここに公開いたしました。

<前史>

太古の昔より、支那から太平洋への出口を弓状に連なる島嶼群(日本列島含む)で塞ぐ形に位置するわが国にとって、大陸との緊張関係はいわば歴史の宿命であった。

典型的な例が鎌倉時代における文永・弘安の役、いわゆる元寇である。当時の世界帝国・元に対して服属を拒否することは即戦争を意味し、その結果「くにの滅亡」を招来した時代に、ゆるぎない決意をもって一大祖国防衛戦争に決起したわが国の先達に対して私たち日本人は今さらながら畏敬の念を禁じえない。顧みるに、この戦さのためにのみ誕生し、早世していった北条時宗のような指導者に連綿と導かれてきたのがわが国の歴史であった。

わが国の黎明期である大和から飛鳥に移りゆく時代、聖徳太子は隋の煬帝に遣隋使・小野妹子を通し国書を認(した)ためている。「日出づる処の天子 書を日没する処の天子に致す 恙無きや」と。華夷秩序を自然の摂理と考え、支

那に対し朝貢外交以外の接し方を知らなかった時代にわが国・日本の採った態度はまぎれもなく青天の霹靂と映ったに相違ない。しかし、それは決して偶発的なことでも、情緒的なことでもなかった。国の行く末を見据え、入念すぎるほどの準備と、首尾一貫した計画にもとづく、まさに「千年もの」、「万年もの」といっても過言でない勇氣と決断の賜物であったのである。

自国の民族の歴史にわが国が無数に生み出してきたような英傑を輩出できないが故に、何万という部族や民族が、支那に服属を強いられ、かつて存在したという痕跡さえ奪われてきたのが東アジア史の冷厳な真実である。西洋(人)がみずからをヨーロッパ(人)としてすら自認し、確認できなかった時代に、すでに十七条憲法を制定し、大化の改新を断行し、公地公民制度を確立したわが国が「世界最古の国民国家」と称される所以はここにある。ほどなく記紀を編纂したわが国は、天上界に淵源をもつ、

天皇を中心とする奴隷も階級もない一大家族国家として歩むことを内外に宣言した。

支那との間に対等外交を展開する国体を維持しえたがゆえに遣唐使を廃絶し国交を断つことができた。そうであるからこそ、元寇にも正気を失わずに国を挙げて対処できたのである。またこのような国の資質を体得してきたが由に西洋人のいう「地理上の発見の時代＝大航海時代」(応仁の乱から信長、秀吉を経て家康に至る時代)にわが国だけが南蛮人や紅毛人の武力侵攻や耶蘇教の宣伝工作に屈することがなかった。

<本文>

かかる前史を辿ってきたわが国が迎えた最大の試練のひとつが産業革命を遂行したヨーロッパと正面から向かい合うことになる幕末から明治に至る時代である。

それは新興国アメリカの東インド艦隊が浦賀に来航するところから始まった。急速かつ広範囲に亘り怒涛のように押し寄せる外圧に、



当時の先達は神武建国の精神にたちかえると共に大政奉還、廃藩置県の断行をもって応じた。国家存立のために矢継早な改革を迫られながらも五箇条の御誓文、軍人勅諭、大日本帝国憲法、教育勅語と着実に国体を整備していった様は、千二百年以上も前の一大建国事業を彷彿させるものであった。

その若き明治国家・日本が最初に受けた試練が日清戦争である。明治19年8月1日、長崎に入港した清国北洋艦隊の暴虐を目のあたりにしたが、海軍力で決定的に劣っていたが故に為す術がなかったわが国は、8年後の明治27年の同じ日、8月1日、清国に宣戦を布告した。臥薪嘗胆の賜物であったこの戦さは近代日本初の自衛戦争の勝利で帰結した。

如何に狂風吹きまくも
如何に怒濤は逆まくも
仮令(たとえ)敵艦多くとも
何恐れむや義勇の士
大和魂充ち満てる
我等の眼中難事なし

維新以降(このかた)訓練の
技倆試さむ時ぞ来ぬ
我帝國の艦隊は
榮辱生死の波分けて
渤海灣内乗り入れて
撃ち滅ぼさん敵の船

明治28年4月17日、下関の春帆樓における日清講和会議の結果、台湾は日本に割譲された。明治四年の牡丹社事件の際、日本側全権副島種臣に対し、清国皇帝をして「化外の地」と言わしめた台湾が名実ともに日本に帰属した瞬間である。爾来、120年に及ぶ日台関係

はこの時をもって起点とするが、台湾の歩みは華夷秩序から限りなく離脱する軌跡を描いて今日に至る。日清戦争によって朝鮮を支那の冊封体制から解き放ったわが国にとって、その10年後に訪れたロシアの重圧は、かつての元寇を想起させるだけにとても容認できるものではなかった。(日露戦争)

そのようなわが国が欧米白人人種の圧政に呻吟するアジアをその鉄鎖の軛から解放せんと開始した大東亜戦争は、いわば歴史の必然といってよい。日清講和48年、日露講和38年の昭和18年に発せられた「大東亜宣言」ほどわが国の戦争目的が感動的に語られた例はない。

昭和20年、わが国は3年と9ヶ月に亘る大東亜戦争の終戦を宣言したが、有史以来、有色人種の国で支那の冊封体制への編入を拒否し、元を撃退し、近代においては欧米列強の植民地にもならなかった国が果たしてあっただろうか。また支配・被支配の関係からしか世界が考えられない時代の中で、「八紘一宇」として人間皆同胞・兄弟の姿勢で臨む国があっただろうか。

終戦70年を迎える今日、私たち日本人にとって一番大切なことは、神武建国以来、わが国が辿ってきた歩みを正しく把握し、いかに先人が公のために心を尽し、国を護ってきたかを素直に認めることである。もし世界に奇跡があるとするならば、それは天皇を中心とする家族共同体が、西暦21世紀の今日に至るまで連綿と続き、一億の民を擁しながら近代国家として成り立っている事実である。

ますらおの かなしきいのち
つみかさね つみかさねまもる
やまとしまねを

これは、靖國の杜の遊就館に掲げられている歌だが、累々たる戦人(いくさびと)の命によって護られてきた公心(おおやげごころ)の国・日本を、120年来の友であり、同胞である台湾の皆様と共に未来に繋げ、現在途絶えている国交を速やかに回復し、世界も羨む二国間関係を築いていくことこそが、日清講和条約締結120年、終戦70年に最もふさわしい誓いの言葉である。その証しとして、ここに『福岡宣言』を献げる。

『福岡宣言』

一、支那の冊封体制から朝鮮を解放したわが国の戦争目的は時を経て昭和18年の大東亜宣言に引き継がれる。その結果、アジアにおける欧米白人人種の植民地支配体制は悉く終えるに至った。これが終戦70年の歴史である。

一、日清講和条約の締結により台湾は大陸から離脱した。今こそ大陸支那は、120年に及ぶ割譲による台湾放棄を認めるべきである。
一、わが国・日本は、台湾とご縁が結ばれた明治28年4月17日の春帆樓の初心に立ち返ると共に、断交43年の道義的責任を感じ、国交改善と関係正常化に取組むべきである。

平成27年6月21日

日華(台)親善友好慰霊訪問団
第13回台湾特別講演会参加者一同



❖公的支援なき公的事業に国民の皆様のご理解とご支援を❖

台湾特別講演会を開催するに当たり物心両面にわたって
多大なご支援を戴いた皆様にご心から御礼申し上げます。

《特別協賛 協賛 後援》

台北駐福岡経済文化辦事處 福岡市議会日台友好議員連盟 日台友好筑紫野市議会議員連盟 日本会議地方議員連盟 美祢市総合観光部 大野城市国際交流協会 産経新聞九州総局 フクニチ住宅新聞 東海新報 日本時事評論社 山口県日台交流協会 九栄会 福岡教育連盟 (公財)オイスカ西日本研修センター 日本会議福岡 台湾在日福岡留学生会 福岡縣神社廳 福岡縣護國神社 英霊にこたえる会福岡県本部 鎮安堂飛虎將軍廟 福岡県海友会 (一社)福岡県郷友連盟 (公財)水交会福岡支部 甲飛喇叭隊第11分隊 福岡日華親善協会 福岡県中華總會 九州台日文化交流協会 日台交流をすすめる会 山口県日台文化経済交流会 福岡県モラロジー協議会 日本協議会福岡県支部 教育研究会未来 スタジオ日本日曜討論番組を支える会 岩屋城史の会 松俵建設 関家具 濱崎理想瓦製造所 近畿日本ツーリスト九州福岡支店 中部鋼材 H A S 国際不動産鑑定所 小島テナント事務所 悠悠 大道印刷 チャイナエアライン エバー航空 日升大飯店 紅乙女酒造 エースコーポレーション 石村萬盛堂 ジャスト・イン・タイム 壱岐・対馬フェリー PiPaRa-ピパラ パシフィックキャピタル ジャパン 九州不動産専門学院グループ 永留照子

《慰霊祭主催団体 現地協力 交流団体》

台中・台湾台日海交會 台中・台湾中日海交協会 台中・寶覺寺 高雄・保安堂 屏東・東龍宮 台南・海尾朝皇宮 台南・飛虎將軍廟 嘉義・富安宮 新竹・勸化堂 新竹・濟化宮 新北・烏來高砂義勇隊紀念協會 台南・嘉南農田水利協會(烏山頭水庫・八田與一紀念館・八田與一紀念公園) 台北・台日文化經濟協會 台中・台灣海軍ラバウル會 台南・奇美基金會(奇美博物館) 台南・鹽水國民小學

《個人協力》

小牧徹志 永濱浩之 永留照子 戸川泰彦 宮川昌江 中川 久 濱柴崎一郎 下田ヒロ子
白水キミ子 圖司敏汎 安河内泰彦 山本駿一 石川秀久 甲斐和郎 竹中 健 塩山敏彦
高橋幸久 高間光廣 野間 修 林 克紀 福田章枝 藤原 雄 真栄田 強 森岡寛治
山本須賀子 吉弘浅子 青木繁政 石原祐教 井原四郎 岩本宣善 浦木 勇 金子孝夫
小宮秀太 高田 訓 田中孝夫 田中足穂 中山 茂 永濱武司 西山 洋 庭末正二郎
兵動和郎 藤田達男 堀内泰彦 丸岩憲正 森 敬恵 山室俊武 山本 正 吉弘逸子

匿名1名

(順不同・敬称略)

《企画運営》 第14回台湾特別講演会実行委員会

●ご協力ありがとうございます。

(株)エースコーポレーション
沼田 真清
☎(03)3408-0523
〒107-0061 東京都港区北青山2-7-18

(株)石村萬盛堂
代表取締役 石村 善悟
☎(092)291-5090
〒812-0028 福岡市博多区須崎町2-1

永留 照子
☎(092)406-2719
〒810-0035 福岡市中央区梅光園3-3-1305

日華(台)親善友好慰霊訪問団 台湾支部
支部長 黄 明山
☎(07)751-4906
〒830-0092 高雄市鳳山區南正一路2巷11弄5號

臺灣の聲 — ありがとう日本 —



私たち訪問団の活動についてのご意見や様々な交流行事での感想、近況報告等、台湾の皆様からの「声」が事務局には多く寄せられます。本誌ライセンスメイトに新たに「臺灣の聲」という投稿欄を設けることにしました。何でも結構ですから、あなた様も「声」をお寄せ下さい。

急啓 このたびは熊本地震のためご災難にあわれたとのこと ただただ驚いております。台湾台日海交會の會員一同は、謹んでお見舞い申し上げます。皆様もご無事とのこと何よりと存じます。何卒皆様には、お気持ちを強くもたれこの事態を乗り切っていくことを心より祈っております。先ずは、とり急ぎお見舞い申し上げます。

小菅団長 様

台湾台日海交會 會長 林余 立 敬上
台湾台日海交會 幹部一同 敬白

民國百五年四月二十二日

註：台日海交會幹部から募金しました熊本県への震災義捐金、日幣貳拾五萬壹仟円、同封にて送りました。団長さんから手渡しお願い申し上げます。

※台湾台日海交會様からお預かりした義捐金は、産経新聞九州総局を通じ、熊本県へ届けさせていただきました。心より感謝申し上げます。

日華(台)親善友好慰靈訪問団
団長 小菅亥三郎

請告訴我們您的意見,感想或近況。

在LICENSE MATE裡新設了一個叫做「來自臺灣的聲音」的專欄。請寫下列如對訪問團的活動上有任何寶貴意見,或與我們交流的感想還有您的近況皆可。

內容不限,希望各位踴躍投稿。

若因版面字數數上有限無法刊載全文時,敬請見諒。

傳真⇒ 81-92-725-3190



●ご協力ありがとうございます。

(株)ジャスト・イン・タイム
麻生 法晴
☎(092)373-0703
〒810-0002 福岡市中央区薬院2-3-10-203

壱岐・対馬フェリー(株)
代表取締役 眞崎 越郎
☎(092)751-3121
〒810-0071 福岡市中央区那の津3-46-7

(株)紅乙女酒造
☎(0943)72-3939
〒839-1213 福岡県久留米市田主丸町益生田562-2

(有)PiPaRa -ピパラ-
代表取締役 森 眞一
☎(090)8668-6782
〒816-0855 春日市天神山4-27

パシフィックキャピタルジャパン(株)
代表取締役 新開 崇司
☎(092)282-8628
〒812-0024 福岡市博多区綱場町4-11-701

フクニチ住宅新聞
☎(092)731-2220
〒810-0021 福岡市中央区今泉2-3-19-202

どなたでもご参加できます！

第18次 台湾慰霊訪問の旅 参加者募集のお知らせ

- 目的 ①大東亜戦争で散華された台湾人同胞三万三千余柱の英霊顕彰と慰霊祭参列(台中・宝覺寺)
②領台時代の魂を継承する現地台湾人との家族交流・兄弟交流
③御祭神他が日本統治時代に淵源を有するところへの参拝や訪問
④中華民国外交部をはじめとする各地の公的機関他への表敬訪問
- 参加資格 日本国籍を有する日本人であること(国籍、民族、人種等が異なる場合はご相談下さい)
- 訪問日 Aプラン 平成28年11月22日(火)～26日(土)までの4泊5日間
Bプラン 平成28年11月24日(木)～26日(土)までの2泊3日間
- 旅行代金 お1人様 145,000円(※Bプラン 105,000円)
※東京出発の場合や他の空港から出発の場合には差額が発生しますのでご了承下さい。
※参加費は、旅行費用、現地対策費、祭礼交流費用、記録費用によって構成されています。
旅行費用/旅費・食費・宿泊費他、現地対策費/第18次慰霊訪問事業に関わる通信費、贈答品手土産他、祭礼交流費/慰霊祭主催団体への玉串料、慰霊地あてのご芳志、歓迎会主催団体への会費(謝礼)、記録費用/記念アルバム、記念DVD、記念報告集(ライセンスメイト)他
※慰霊や交流のためのお線香や手土産等は事務局で準備します。
※上記の旅行代金については消費税が10%になった段階で改訂させていただきます。
《ご注意》この旅行は 海の彼方のニッポンを訪ねて行う慰霊と交流の旅 です。一般のグルメ旅行や趣味の旅行とは違いますので予めご承知おき下さいますようお願い申し上げます。
- 募集人員 30名
- 食事条件 朝4回、昼4回、夕4回付(※Bプラン 朝2回、昼2回、夕2回付)
- 利用ホテル 三徳大飯店、華王大飯店、通豪大飯店 等の有名ホテル(予定)
- 申込締切日 平成28年6月30日(木)
- 訪問先 台湾 ※台湾は世界一の親日国です。

添乗員が
福岡空港より
同行します

【第18次台湾慰霊訪問の旅 予定訪問先】

1日目 11月22日 ①明石元二郎台湾総督墓所(慰霊式)～②交歓会(黄文雄先生)／高雄泊

2日目 11月23日 ③台湾無名戦士記念碑(慰霊式)～④東龍宮(慰霊式)～⑤交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)／高雄泊

3日目 11月24日 ⑥保安堂(慰霊式)～⑦高雄市政府表敬訪問～⑧飛虎將軍廟(慰霊式)⇒海尾朝皇宮～⑨奇美博物館見学～⑩交歓会(台湾台日海交會)／台中泊

4日目 11月25日 ⑪宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒靈安故郷碑(慰霊祭)～⑫交歓会(台湾中日海交協會)～⑬南天山濟化宮(献花式)～⑭交歓会(台日文化經濟協會)／台北泊

5日目 11月26日 ⑮中華民国総統府見学～⑯中華民国外交部表敬訪問

※但し、スケジュールは第17次の訪問先です。今次の訪問先については現在調整中です。訪問先の予定や交通機関等の都合により変更になることもございますので予めご了承下さい。

- 贈呈 ①「日華(台)親善友好慰霊訪問団」団員名刺(1セット100枚)
※両国旗がデザインされた素晴らしいものです。訪問先での交流にご活用下さい。
②慰霊訪問の旅 記念アルバム(1冊) ③慰霊訪問の旅 記念DVD(5枚組)

知られざる「神蹟の遺跡」

台湾無名戦士記念碑～戦争與和平記念公園

高雄市旗津地区のフェリー乗り場から南に下ったところにある風車公園。この公園内に平成17年(2005)、「台湾無名戦士記念碑」が建てられた。行政院文化建設委員および高雄市政府によって「戦争與和平記念公園」として整備された。しかし、平成20年(2008)に高雄市議会が公園の名称を「平和記念公園」(和平記念公園)と改名することを決議し、さらに「台湾無名戦士記念碑」を撤去する計画が浮上したことからこれに抗議した許昭栄氏(台籍老兵協会理事長)が5月20日に記念碑の前で焼身自殺を遂げた。

許昭栄氏と
台湾無名戦士記念碑

大東亜戦争で日本兵として戦死した台湾兵士はおよそ3万3千人、靖國神社に合祀されている。しかし、国共内戦で国民党に徴兵され、戦死した台湾兵士はおよそ1万2千人である。昭和27年(1952)に結ばれた日華平和条約において、日本は

台湾における領土権を放棄し、中華民國(台湾)は日本に対する賠償を放棄した。台湾籍日本兵は大東亜戦争中は日本兵として戦ったが、日本軍人が受けた補償が受けなかった。条約で日本国籍と補償を受ける権利を失った。台湾人は台湾のために戦ったのではない。日本のために戦い、更に不本意ながら国民党に徴兵されて国共内戦で戦ったのである。しかし、日本はこの事実を認め、靖國神社に合祀したのに反し、国民党政府は台湾兵戦没者の存在すら認めようとしなかった。許昭栄氏は国民党の迫害に耐えながら、国共の大陸戦争に巻き込まれた台湾人の生存者及び戦死者を探していた。

許氏が国府に抗議を続け、ようやく平成7年(1995)に1万2千柱の英霊を台北の忠烈祠に合祀したが、国民党は儀式を非公開にして写真さえ撮らせなかった。このため許氏は台湾戦没兵士のため、高雄市に用地を請求し、旗津半島にあった未開発地を市政府から譲り受け、そこ

に「魂鎮故土」の慰霊碑及び「台湾無名戦士記念碑」を私財を投じて独力で建立した。

抗議の焼身自殺

ところが蒋系中国人の市議會議員は政府が整地の費用を出す機会に許氏の業績を抹殺し、中国人の記念碑にしてしまう卑劣な手段をとったのである。つまり「戦争と平和記念公園」から戦争の2字を除去し、「平和記念公園」とすると決議したのである。蒋系中国人は戦争の2文字を入れれば中国の反発を買うから戦争を除去し、そこに「八二三戦没者慰霊碑」を建てると説明した。

戦争は台湾人の本意ではなかったのに戦争に駆り出されて戦死者を出した。それ故に「戦争與和平記念公園」と命名したのである。台湾人が苦心して作った台湾人の公園を中国人の公園にしてしまえ、という中国人の理不尽に対する抗議の焼身自殺であった。



台湾無名戦士記念碑



許昭栄氏の焼身自殺の地で献花



中華民國外交部・ 台日文化經濟協會・ 高雄市政府(市役所) 表敬訪問

平成27年11月24日(火)、保安堂での慰霊式を終えた一行は、高雄市政府を表敬訪問しました。総統選挙前で多忙な陳菊市長に代わって、楊明州秘書長が対応して下さいました。広い会議室で、映像による高雄市の紹介があり、続いて楊秘書長が歓迎の挨拶をされま

した。その中で、去年のガス爆発事故に対する義捐金へのお礼とともに、「福岡宣言」を高く評価されたことには、大変驚きました。訪問団のことをよく調べておられることが視えました。

小菅団長は答礼の挨拶で、台湾にゆかりの深い本間雅晴中将の縁

戚にあたる本間潤子さんが参加されていることを紹介し、縁の深さを強調しました。

和やかな雰囲気で一時間余りの表敬訪問を終えた一行は、記念撮影を済ませ、次の訪問先へ向かいました。



楊秘書長と記念品の交換



挨拶する黄天麟會長



李明宗亜東太平洋司総領事回部辦事を交えての記念撮影

11月25日(水)、新竹の濟化宮での慰霊式を終えた一行は、新竹駅より新幹線に乗り換え、台北へと向かいました。台北へは30分程で到着し、台日文化經濟協會主催の歓迎夕食会に臨みました。会場内の各テーブルで黄天麟会長はじめ役員の皆様が笑顔で出迎えて下さいました。黄会長の歓迎の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶の後、会食が始まりました。次々と運ばれてくる美味しい料理を囲み楽しく歓談し、カラオケに興じたり親交を深めました。

お土産に戴いた蔡永興氏の歌集「香る園・第3集」には、台日親善 福岡に 震災支援の謝辞尽きず 台日親善訪問の宵他2首の歌が収められており、第

13次訪問を懐かしく思い出しました。いろいろと話の尽きぬ中、来年の再会を約して会場を後にし、宿泊先の慶泰大飯店へ向いました。

11月26日(木)最終日、前福岡辦事處處長の曾念祖氏がわざわざホテルを訪ねて来られ、出発前のバスの中でご挨拶を戴きました。在任中には大変お世話になり、懐かしい限りでした。

その後一行は、領台時代50年のシンボルである中華民國總統府を見学しました。沢山の団体が順番待ちをしている中、福岡の辦事處にあらかじめお願いしていたお陰で時間通りに入場でき、各コーナーを説明を聞きながら廻り、台湾の歴史や文化等を学びました。

總統府を見学した後、中華民國外交部を表敬訪問しました。対応して下さったのは李明宗亜東太平洋司総領事回部辦事で、歓迎の挨拶で慰霊のみを目的とした公的支援なしの民間団体は唯一だと言及されました。またここでも「福岡宣言」を高く評価して戴きました。

小菅団長は福岡宣言の評価に謝意を表明し、日本軍人として亡くなった英霊を日本人が参拝することを国家として認めて下さっていることに感謝の意を述べました。その後、質疑応答があり、李氏は丁寧な受け応えして下さい、終始和やかな表敬訪問となりました。

第17次台湾親善友好慰霊訪問の旅

結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会

平成27年度「第17次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」の結団式・壮行会には、戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長、山田豊正・美祢市台北観光事務所所長、羅允謙・台湾在日福岡留学生会会長、福岡市議会議員の稲員稔夫、中島正裕両氏、春日市議会議員の竹下尚志氏、筑紫野市議会議員、横尾秋洋、中山雄夫、波多江祐介の各氏、衆議院議員の井上貴博、鬼木誠両氏(代理)、参議院議員の中山恭子氏(代理)らの来賓をはじめ、慰霊訪問団の役員、旅の参加者、九栄会会員、台湾からの留学生ら約60人が参集、慰霊訪問の旅の成功を祈念するとともに日台の友好親善の絆を深めた。

第17次訪問団には福岡県を中心に九州・沖縄各県をはじめ千葉県や新潟県、愛知県、静岡県など国内各地からの参加者と台湾からの参加者を含め32人が参加、台湾各地を訪問する。

結団式では、日台両国の国旗敬礼、国歌斉唱に続き、先の大戦で亡くなられた原台湾人元日本兵軍人軍属並びに慰霊訪問事業に尽力し、志半ばで亡くなられた方に対して黙祷を捧げた後、結団式に先立ち戎義俊處長の記念卓話「八田與一と日本精神」が行われた。

戎處長は、台湾の水利事業に尽くした八田與一と台湾の教育に命を捧げた「六士先生」を紹介、「己を犠牲にして全力を尽くして事にあたる」日本精神を體現した人達を通して、日本と台湾の目に見えない絆である「日本精神」をもう一度、日本人は呼び覚まして欲しいとエールを送った。

「日本精神」とは、台湾人が好んで



用いる言葉で、勇気、誠実、勤勉、自己犠牲、責任感などを説いた精神を指している。日本統治時代に台湾人が学び、台湾で純粋培養された精神として、台湾人が自らの誇りとした。教育によって台湾に浸透した「日本精神」があったからこそ、台湾は戦後の近代社会を確立できた。しかし、残念ながらそれを生み出した日本では戦後、大和魂や武士道精神は影を潜めてしまった。その日本精神は今でも台湾に息づいている。台湾と日本の両国民が持ち合わせている「日本精神」こそが、両国を結ぶ目に見えない強い絆といえる。

日本の皆さんには「日本精神」つまり「大和魂」を思い出し、取り戻していただきたい。「日本精神」という絆で結ばれた日台両国が、これからも切磋琢磨し、一層親密な友好関係を築いていけるように強く願っていると結んだ。

次いで、訪問団の平尾文洋氏の開会の辞で結団式に移り、主催者を代表して小菅団長が挨拶した。

日本は明治維新後、軍人勅諭や大日本帝國憲法、教育勅語を渙発、発布し、矢継ぎ早に国体を整備していった。その日本人というものの考え方で武装された日本人が初めて海外で統治した国が台湾だった。教育や医療、インフラの整備など行っ

たが、台湾だけを特別扱った訳ではなかった。千島列島、南樺太、朝鮮、満州国も同じようなことをした。北朝鮮では、烏山頭ダムを上回る巨大な水豊ダムを造っている。

台湾は3万3千人の戦死者を出しながら、日本に世話になったと言ってくれている。台湾には、日本統治時代のことを大切に思い伝えて頂いている。そのため台湾に行けば戦前の日本人の考え方が体感できる。台湾に行かれる皆さんは、体感しようというアンテナを発達させて、大いなるものを獲得して無事に帰ってきて頂き、大いに広めて頂きたいと語った。

休憩を挟んで壮行会が戎處長ご夫妻をはじめ台北駐福岡経済文化辦事處領事、留学生会の羅允謙会長、横尾秋洋・筑紫野市議会議員、福岡県中華總會などからの来賓を迎え開催された。

慰霊訪問団常任顧問の松俵義博氏が特別報告を行い、去る9月に台湾から通訳を含め32名の方が靖國神社に参詣するために訪日され、訪問団員の有志の方々が多勢で出迎えたことを報告。これからさらに日台が絆を深めるとともに手を携えていくことを祈念した。

壮行会は、和やかな雰囲気の中で進み、戎處長や辦事處の領事、台湾からの留学生、小菅団長らを交え台湾歌謡と「日本丸」の大合唱が会場を巻き込んで賑やかに繰り広げられ、壮行会は最高潮に達した。

訪問団沖縄支部長の富原浩氏の万歳三唱、横尾秋洋筑紫野市議会議員が閉会の辞に立ち、「一所懸命努力して日本と台湾の絆を本当に大事にしていきたい」と話した。

第17次となる台湾への「親善友好慰霊訪問の旅」の帰朝報告会・新年会は平成27年1月23日、福岡市天神の平和楼本店で開催され、戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長夫妻をはじめ、来賓、慰霊訪問の参加者、九栄会会員、台湾からの留学生ら80人が参集し、訪問団員の無事帰国を祝うとともに日台の親善友好を深めた。

帰朝報告会に先立ち、台北駐福岡経済文化辦事處の戎義俊處長が「暗黙知と日本精神」と題した記念卓話を行った。

皆様は「暗黙知」という言葉の意味をご存知でしょうか。人間社会には「隠された前提(価値)」＝「暗黙知」があって、かつての日本人はそれを知っていたし、今も知っている日本人はいるということ。日本には昔から庶民のための私塾や寺子屋があり、庶民に「知」と「意」(意思・志・心意気)を教え、庶民の素養によって明治の近代化が支えられ、共同体の良好な維持、運営ができたということです。

中国の古典『漢書』に「礼失求諸野」(礼失われてこれを野に求む)というものがあります。「日本精神」とは、もともと日本人が持ち合わせた素養と気質であります。残念ながら、今日の日本社会においては次第に失われつつあるものであり、それはむしろ野の台湾で大事にされているものではないかと常々思っています。

台湾では勇気、忠誠、勤勉、奉公、自己犠牲、責任感、遵法、清潔といった精神を「日本精神」と呼び、好んで用いられています。日本統治時代にこれらの精神を台湾人が学び、台湾で純粋培養されました。それは後に、自分達の素養や気質として、誇りを持って「日本精神(リップンチェンシン)」と呼ばれるようになりました。いわば台湾に根付いた武士道であ

ります。こういう精神があったからこそ、戦後の中国文化に完全に呑み込まれることなく、現在の近代社会が確立されたと言えるのではないかと考えています。

台湾で言われている「日本精神」とは、即ち日本の「武士道精神」です。明治28年から昭和20年までの間に、台湾での教育は知識の伝授と共に、精神的な支柱として「日本精神」が教え込まれました。

日本は明治28年4月に台湾総督府を開庁し、そのわずか3ヶ月後には「教育こそ最優先すべきである」として台北郊外の芝山巖に最初の国語学校(日本語学校)「芝山巖学堂」を開校しました。現在では台湾教育発祥の地とされ、「六氏先生」の慰霊碑が建立されています。戦前の日本人は勇気と責任感を持ち、「六氏先生」はその象徴的存在でありました。「日本精神」というものを究極にするならば「勇気と責任感」に集約されるのではないかとと思うのです。まさしくこの「芝山巖精神」こそが台湾に生きている「日本精神」なのです。

暗黙のうちに了解する術「暗黙知」。日本人特有の尊い価値観「日本精神」、命を懸けて教育にあたる「芝山巖精神」。これらのどれもが、かつての日本の道徳的体系であった武士道の精神であり、その根源は同じだと思っています。台湾と日本、両国民が持ち合わせているこの精神こそが、両国を結ぶ目に見えない強い絆であるといえるのではないのでしょうか。

帰朝報告会は、慰霊訪問事業に尽力され、志半ばで他界された永田昌巳常任顧問を偲び、参加者全員で黙祷し、小菅団長が永田常任顧問の写真を前に追悼の辞を捧げスタートした。

小菅団長は挨拶で、今回の第17次訪問団の大きな特徴は、①日清

講和条約締結120年、終戦70年、霊安故郷碑建碑25年の記念すべき年での訪台であったこと、②いま台湾は大きく生まれ変わろうとしており、我が国で言えば、さながら明治維新前夜のような状況の最中に訪問できたこと、③団員に4人の地方議員が加わり、台湾を主軸に据えた近隣諸国政策に大きく舵をとりつつある現在の我が国の潮流を色濃く反映できたこと、④台湾軍司令官で高砂義勇隊の生みの親である本間雅晴中将の縁戚の団員のご参加や沖縄支部から2人の合流がかちとれたことにより、年齢、動機や使命感で多様性溢れる訪問団を編成できたこと等を挙げ、今回は高雄市の「戦争と平和記念公園」や「中華民國總統府」も旅程(初)に組み込み、画期的な旅となったことを報告した。

第2部の新年会は、訪問団東京支部長の藤田達男氏が開会のことばを述べスタートした。錦川岳泉氏による祝舞が会場を魅了し、大きな拍手が沸き起こった。その後、友誼団体の九栄会副会長の上野和彦氏が乾杯の音頭を取り祝宴に移った。歓談の中で団員の感想発表が行われ、福岡教育連盟の岩重誠氏が台湾での体験を語った。

その後、台湾留学生会の黄悠然会長をはじめ留学生の紹介があり、激励の拍手が送られた。次いで、訪問団副団長の田中道夫氏が力強い万歳三唱を行い、最後に訪問団顧問の横尾秋洋筑紫野市議会議員が「第18次の慰霊訪問は今日から始まる。今年は総統選挙も行われ、蔡英文氏が当選すれば、台湾も大きく変わる。6月の台湾特別講演会を成功させ、大勢の方の参加を得て、11月の第18次慰霊訪問の旅を挙行したい」と語り、出席者に協力を呼びかけた。

日台の魂の交流 第13回台湾特別講演会

日清講和条約締結120年／終戦70年 福岡宣言

『太陽花學生運動 統一地方選 そして総統選へ』

— 台湾の若者が示した勇気と献身 —

台湾特別講演会は、平成15年6月から実施されており、2部構成で第1部は恒例となった文明史家の黄文雄先生による基調講演、「太陽花(ひまわり)學生運動 統一地方選 そして総統選へ—台湾の若者が示した勇気と献身」。2部は、昨年に続きパネルディスカッションが行われ、「戦後70年と私たちの課題—『KANO』を制作した台湾の言語空間」をテーマに小菅団長が司会、黄文雄先生、施光恒先生、柳原憲一先生の3氏による討論が行われた。

講演に先立ち式典が行われ、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、「生命の絆」唱和、香椎宮雅楽保存会の楠本展将・権禰宜らによる雅楽演奏で「越天楽」など3曲が奉納された。

厳粛な雰囲気の中、主宰者を代表して慰霊訪問団の小菅団長が挨拶に立った。小菅団長は、出席者、来賓に祝辞を述べた後、台湾特別講演会の意義について語った。

台湾は明治28年(1895)4月17日、日清戦争の結果締結された下関講和条約により、清国から日本に割譲され、日本になった。

現在、台湾は話題になっても日清講和条約について語られることは余りない。小菅団長はこのことにふれ、「今年は日清講和条約締結120年になる。それにちなんだ行事にさせて頂こうと思い、前回までの会場が手狭になったこともあり、西鉄グランドホテルに変更した。この講演会



を通じて原台湾人元日本兵戦没者に哀悼の誠を捧げ、日本と台湾の絆を再確認して頂き、魂の交流活動に関わって頂けることを願っている」と述べた。

次いで来賓を代表して戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長が挨拶に立った。

戎處長は、台湾映画『KANO』から見た日本と台湾の深い絆について紹介した。「KANO」は、昭和6年(1931)甲子園で行われた第17回全国中等学校優勝野球大会に台湾台表として出場、準優勝した嘉義農林学校野球部の史実に基づいて制作された映画で、近藤兵太郎監督の「球(タマ)は魂(タマ)なり」という教えの下、守備に長けた日本人、打力のある台湾人、俊足の原住民の3民族が一致団結して快挙成し遂げ、嘉農旋風を巻き起こした。

戎處長は「台湾は様々な民族が集まり成り立っている社会であり、かつては多くの日本人も住み、共に同じ時代を生き、三民族団結が見事に成功した。嘉農の球児たちは、その象徴であると言える。日台の歴史を『KANO』に学んで頂きたい」と話した。また、戎處長は「勤勉、強い責任感、法の遵守、人を思いやる心。全

力を尽くして事に当る、命を懸けて行動する象徴として日本精神は生活の知恵となり、今は台湾人の魂として生き続けている精神文化だ。台湾が中国に呑み込まれようとしている今こそ台湾人が帰るべきものは、日本精神であり、台湾人で誇りを持って受け継がれるべきものだと思う」と強調し、最後に「台湾と日本が共通して持っている日本精神こそが両国の目に見えない絆だ。戦後70年の節目の年に皆さんが、日本精神とは何か、目に見えない絆とは何かもう一度考え直し、見つめ直して、日台両国がこれからも互いに切磋琢磨し、友好関係が一層飛躍的に発展できるよう祈念する」と述べ、祝辞を締め括った。

その後講演に移り、第1部は文明史家の黄文雄先生が講師を努め、「太陽花學生運動 統一地方選そして総統選へ」と題して講演。第2部では「戦後70年と私たちの課題」をテーマに、訪問団の小菅団長が司会を務め、パネリストに黄文雄氏、九州大学大学院准教授の施光恒氏、西日本台湾学友会前会長の柳原憲一氏の3氏を招きパネルディスカッションが行われた。

講演会終了後、講師の黄文雄氏や台湾からの留学生らを囲み、約150人が参集し交流会が開かれ、日台の親善友好を深めるとともに、第17次の慰霊訪問団への参加の気運が大いに盛り上がった。

黄文雄氏の講演内容(概要)は次のとおり。

黄氏は、「台湾の『ひまわり学生運動』は、台湾の一つの大きな流れを変えた。ネット世代の台頭など今、世界は大きく変化している。日本と台湾は戦後70年の総括をしなければならぬ」と持論を展開した。

日・台から見た世界の変化、世界から見た日・台の変化

日本と台湾の良好な関係については、東日本大震災時の義捐金のことや、台湾の訪日観光客が300万人近くになったこと以外にもまだ多くのことがある。台湾の世論調査では、好きな国は日本がトップで、次いでアメリカだが、日本の半分程度。一方嫌いな国は中国がでトップで2位が韓国となって

日本統治時代の50年、中華民国時代の70年、50年と70年の一つの歴史的な転換期だ。

韓国と中国から、最近日本は右翼化しているとよく言われる。私は右翼化しているとは思わない。日本の意思が強くなったとしか感じない。安倍政権になって随分変わった。

私は台湾で、小学校1年生の時に終戦を迎えた。昭和36年に来日したが、回りは敵だらけだった。台湾を強調しすぎたら右からも左からも叩かれた。今は政界だけでなく文化人からも叩かれなくなった。

尖閣にしても日本の代表的学者や文化人が、日本帝国主義が中国から奪ったものだから、中国に返せと言っていた。今は中国に返せという文化人は殆どいない。若い母親が乳母車押しながら街頭デモに参加している。今迄想像もつかなかった。日本は確実に変わりつつある。

日本に限らず世界も変化している。日本は戦後、敗戦から立ち直り

高度成長を遂げたが、その後バブルが崩壊、現在は長期停滞状況にある。一方、東西の冷戦後、中国、ロシアをはじめBRICS諸国が台頭、世界経済に大きな地位を占めるまでになった。

世界から「太陽花学生運動」をどうみるか

昨年3月、台湾と中国間のサービス分野の市場開放を目指す「サービス貿易協定」の批准に反対する台湾学生が、立法院を占拠したことに始まった社会運動「ひまわり学生運動」は、朝日新聞でさえデモの参加者が50万人と報道するなど大きなうねりとなり海外の注目を集めた。

テレビの討論番組で、或る文化人が私に「今の日本の若者は台湾の若者とは比べものにならない」と悲観的に言った。台湾の若者のレベルは高いという評価がある。昨年統一地方選挙で国民党は大敗した。その理由の一つとして「ひまわり学生運動」が挙げられる。

私たちは新聞とテレビで育ったが、今の若者はインターネットで育てられた。ネットの情報は確実性には劣るが、非常に豊富だ。「ひまわり学生運動」は、台湾の一つの大きな流れを変えた。変化をどのようにみるか、学生運動とその役割について問題を提起したい。

台湾の選挙力学の分析

台湾の選挙制度はお金につきる。お金が選挙を左右する。国民党の財産は8,400億台湾元とも言われている。党関係の費用は毎年、日本円で2,000億円くらいかかる。その

ため政権を担当しないと党が消えてしまう。一方政権を担当すると財産がどんどん増える。

政権党は、軍と警察、マスメディアなどを掌握しているから強い。この体制が何十年も続いたが、昨年あたりからこの体制が徐々に崩壊しつつある。

個人的分析では、国民党政権は少なくとも10年以内に再起不能となる。その理由は資金が使えなくなったことと、ネット世代が登場したことにある。

情勢に格段の変化のない限り、来年の台湾総統選挙は民進黨の蔡英文主席が当選確実だ。

台湾は人口2,300万人で、世界的規模から言えば小さな国だが、国際的な力学に強く影響を受けている。台湾に対して一番影響力が強いのはアメリカで、次いで中国、その次が日本だ。アメリカの意向で大体台湾の進路が決められてしまうところがある。

もしアメリカで共和党が政権を奪取すれば、台湾政権にも大きな影響があるのではないかと。

日本は、今迄は中国からの要請を受けて、外務省が台湾に圧力をかけてきたと思われるところがある。安倍政権になり変わってきた。日本は問題ない。

中国は昨年、党の決定で成長政策から安定成長に変わった。8%の成長率確保はもう無理で、中国も大変なことになる。

外貨残高は沢山あるがチャイナマネーの流出が続いている。

公害も深刻で、この50年以内に民族絶滅の危機に直面するのではという見方さえある。

中国の場合、経済面だけではなく、別の面からもみるべきではない

かと思う。

戦後日本70年の総括

日本も台湾も戦後70年を総括しなければならない。日本の国会での集団的安全保障議論は全くつまら

ない。憲法をどうしたらよいかなどを真剣に議論すべきだ。一度過去を清算して、これからの進路をどうすべきか考えるべきだ。

日本や台湾の将来については、楽観的な見方をしている。ネット時代の台頭や日本の文化、文明の仕

組みから見れば楽観せざるを得ない。

日本の若者が、防衛問題だけでなく、5年、10年後の日本の国家の方向づけを真剣に考えて欲しい。



続いて行われたパネルディスカッションでは小菅団長が進行役を務め、パネラーの黄文雄、施光恒、柳原憲一の3氏が登壇、「戦後70年と私たちの課題—『KANO』を制作した台湾言語空間」をテーマに、小菅団長が「日本と台湾の終戦70年をどう総括するのか—黄氏が基調講演で与えた課題に焦点を絞って各氏の意見を伺いたい」と述ベスタートした。

まず黄氏は、日本と台湾の選挙の違いを説明、不在者投票がないなど日本と同じ認識は通用しないことを語った。

次いで、台湾の現状を改革するには「戦前の50年と戦後の70年とどこが違うか比較しながら、分析、総括して再スタートしなければならない」と述べ、「台湾の問題は、台湾と

中国の2国間関係だけではなく、世界から見なければならない。台湾と世界という観点がないと台湾問題は解決できない」と強調、「すべて物理的な力で決められる訳ではなく、いかにして民力をもって武力に対抗するかが重要で、国民全体が世界から魅力を感じられるようにならない」と基本的な考えを述べた。

施氏は、日本の言語空間について、終戦後GHQ(連合軍最高司令官総司令部)の検閲制度により、戦前と戦後の意識が断絶され、日本人の想像力、構想力が失われてしまったことを鋭く指摘。大きな歴史、国際情勢の中で戦前の歴史を振り返ることで日本人は自分の物語を取り戻し、想像力、構想力を再生することが必要であり、そうすることで

憲法改正、世界をリードできる国際秩序構想ができるのではないかと語った。

柳原氏は、日台関係を台湾が清国から日本に割譲された明治28年(1895)4月の日清講和条約の調印まで遡り、日本の領台政策や台湾医学会の発展に尽くした医師らの姿を通して戦前、戦後の日台関係について語った。

最後に柳原氏は、高名な国際法学者・国際司法裁判所判事の小田滋が、台北のシンポジウムで提唱した「二中一台構想」を紹介した。

同氏は、「近年の台湾を取り巻く情勢から見れば、この「二中一台構想」は決して夢ではないと思う。サンフランシスコ講話条約の発効により昭和27年に日本が台湾を放棄するまで日本領であった国土の上に、元日本国民である台湾人が自ら意願の国家を築くことができるならいかに素晴らしいことか」と語り、台湾共和国成立の際は、一番に国家承認することが日本の責任ではないか、と呼びかけた。

小菅団長は、台湾と日本が共通して持っている日本精神こそが両国の強い絆であり、日本は戦後GHQの検閲制度により強要された戦前と戦後の意識の断絶を解消し、自前の価値観で国づくりをするためにも想像力と構想力を回復することが戦後70年の課題だと締め括った。

50年に及ぶ日本統治が半世紀以上経った今日に至るまで、脈々と生き続ける台湾。
この「生命の絆」を守り育て後に続く人に正しく継承していくことが、先達から託された私たち世代の崇高な使命です。

日台の魂の交流 台湾維新元年 第14回 台湾特別講演会

第1部 基調講演

黄文雄先生

台湾総統選(戦)が切り拓く 世界新秩序

— 日本・米国・台湾の新しい展開 —

第2部

パネルディスカッション

戦後体制から躍り出た 台湾人の台湾

— 私たちはどう向き合うべきか —



こう ぶん ゆう
黄文雄先生
(文明史家)

【略歴】昭和13年(1938)台湾高雄県岡山鎮生まれ。昭和36年(1961)来日。昭和44年(1969)早稲田大学商学部卒業。昭和46年(1971)明治大学大学院、政治経済学研究所西洋経済史学修士。現在、拓殖大学日本文化研究所客員教授。



せ て る ひ さ
施光恒先生
(九州大学大学院准教授)

【略歴】昭和46年(1971)福岡県生まれ。平成元年(1989)福岡県立修猷館高等学校卒業。平成5年(1993)慶應義塾大学法学部卒業。同13年(2001)慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。現在、九州大学大学院比較社会文化研究院准教授。



やなぎ はら けん いち
柳原憲一先生
(西日本台湾学友会前会長)

【略歴】昭和32年(1957)台湾彰化県和美鎮生まれ。昭和59年(1984)来日。平成5年(1993)九州大学医学部卒業。九州大学医学部附属病院医員。現在、医療法人柳原皮膚科クリニック理事長。台湾平埔族研究者。

■日時：平成28年6月5日(日) 開場12:30 開会13:00

■会場：ソラリア西鉄ホテル 8階「彩雲」 福岡県福岡市中央区天神2丁目2-43
TEL(092)752-5555

〈振込先〉

- 福岡銀行 県庁内支店
普通預金 1007307
日華(台)親善友好慰霊訪問団
- ゆうちょ銀行 記号01750-1
番号 144572
日華(台)親善友好慰霊訪問団

講演会 / 13:00~17:00

会費：1,000円 定員：300名
(学生無料、訪問団員は500円)

交流会 / 17:15~19:00

会費：5,000円(講演会込)
定員：150名(全席円卓着席)

講演会終了後に講師の先生
や台湾の皆様を囲んで和や
かに交流会を催します

主催：日華(台)親善友好慰霊訪問団(平成11年結成)

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38 天神121ビル13階 TEL 092-721-0101 担当 原田・池田

特別協賛：台北駐福岡経済文化辦事處／九州不動産専門学院／九米会(九州不動産専門学院グループ同窓会)／山口県日台交流協会／松俵建設／関家具／濱崎理想瓦製造所／近畿日本ツーリスト九州／中部鋼材

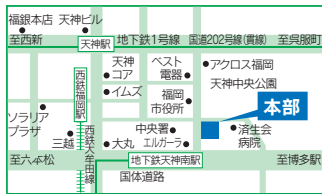
協賛：福岡教育連盟／美祿市総合観光部／HAS／国際不動産鑑定所／小島テナント事務所／悠悠／大道印刷

後援：産経新聞九州総局／(公財)オイスカ西日本研修センター／福岡市議会日台友好議員連盟／日台友好筑紫野市議会議員連盟／日本会議地方議員連盟／日本会議福岡／台湾在日福岡留学生会／福岡縣神社廳／福岡縣護國神社／英靈にごたえる会福岡県本部／福岡県海友会／(一社)福岡県郷友連盟／(公財)水交会福岡支部／(公財)海原会／甲飛喇叭隊第11分隊／大野城市国際交流協会／福岡日華親善協会／福岡県中華總會／九州台日文化交流会／山口県日台文化経済交流会／福岡県モラロジー協議会／日本協議会福岡県支部／教育研究会未来／スタジオ日本日曜討論番組を支える会／日本時事評論社／チャイナエアライン／エパー航空／紅乙女酒造／フクニチ住宅新聞／東海新報／岩屋城史の会

現地協力：台中・寶覺寺 高雄・保安堂 屏東・東龍宮 台南・海尾朝聖宮 台南・飛虎將軍廟 嘉義・富安宮 新竹・勸化堂 新竹・濟化宮 新北・烏來高砂義勇隊紀念協會 台南・嘉南農田水利協會 (烏山頭水庫・八田與一紀念館・八田與一紀念公園)

(慰霊祭主催団体) 台中・台灣台日海交會 台中・台湾中日海交協會 〈交流団体〉台北・台日文化經濟協會 台中・台灣海軍ラバウル會 台南・奇美基金會(奇美博物館) 台南・鹽水國民小學

企画運営：第14回台湾特別講演会実行委員会



日華(台)親善友好慰霊訪問団

本部 福岡市中央区天神1-3-38
TEL(092)721-0101
FAX(092)725-3190

台湾支部(支部長:黄明山)
高雄市鳳山區南正一路
2巷11弄5號
TEL(07)751-4906

台湾支部事務局(事務局長:林家偉)
台北市信義區信義路五段5號
台北世界貿易中心5樓D-26室
日本美禰市台北觀光・交流事務所気付
TEL(09)7845-8470

URL <http://taiwan.l-mate.net>

Eメール taiwan@l-mate.net

